



東北大学



株式会社サーベイリサーチセンター
SURVEY RESEARCH CENTER CO.,LTD.

北海道・三陸沖後発地震注意情報に関する調査 (2025年12月8日 青森県東方沖を震源とする地震)

— 調査結果レポート —

2026年4月

東北大学災害科学国際研究所
株式会社サーベイリサーチセンター

目次

I 調査の概要	2
II 調査結果	4
1 回答者の属性	5
2 注意情報の認知・受け止め	6
3 具体的な防災行動	9
4 社会活動への影響・混乱	24
5 現在の状況	26

本調査は、東北大学災害科学国際研究所、株式会社サーベイリサーチセンターによる共同調査です。
調査結果の引用等にあたっては、同2者の名称と、その共同調査であることの出所を明記して使用してください。

I 調査の概要

1 調査目的

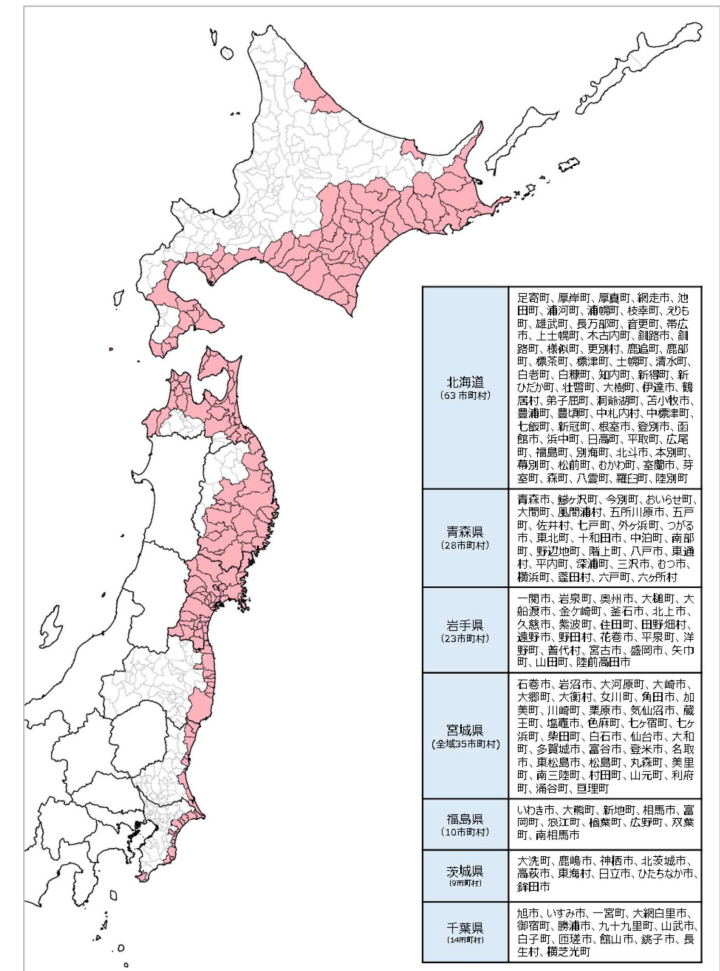
2025年12月8日に発生した青森県東方沖を震源とする地震では、国から初めて「北海道・三陸沖後発地震注意情報」（以下「注意情報」と表記）が発表され、住民に広く防災対応の注意が呼びかけられたことから、その認知度や防災行動への影響、課題等を客観的に分析すると共に、今後の防災施策につなげるために調査を実施した。

2 調査概要

- 調査方法：インターネット調査（インターネットリサーチモニターに対するクローズド調査）
- 調査対象：内閣府において注意情報の発信に伴い防災対応をとるべき地域に指定された、北海道（63市町村）、青森県（28市町村）、岩手県（23市町村）、宮城県（全域35市町村）、福島県（10市町）、茨城県（9市町村）、千葉県（14市町村）に居住する方（詳細は右記参照）
- 調査期間：2026年3月5日（木）～3月10日（火）
- 回収数：12,754s（北海道:2,610s、青森県:1,447s、岩手県:1,510s、宮城県:5,032s、福島県:596s、茨城県:970s、千葉県:589s）

3 調査結果の見方

- 図表内の「n」は比率算出の基数であり、100%が何人の回答に相当するかを示す
- 回答の構成比は百分率で表し、小数第二位を四捨五入して算出しているため、単一選択式の質問においても合計が100%にならない場合がある
- 複数選択式の質問においては、各設問の「n」を基数として回答構成比を算出するため、合計が100%を超える場合がある
- 読みやすさを考慮し、選択肢の語句等を一部簡略化している場合がある

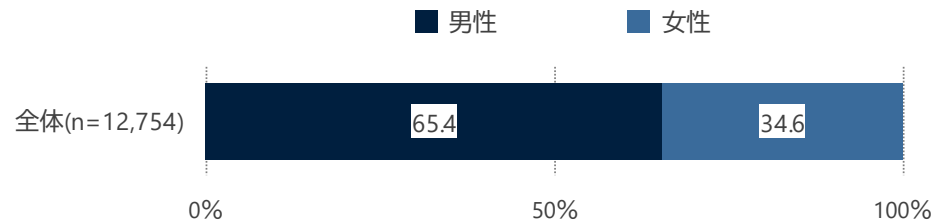


北海道・三陸沖後発地震注意情報発信時に防災対応をとるべき地域
出典：内閣府「北海道・三陸沖後発地震注意情報の解説ページ」

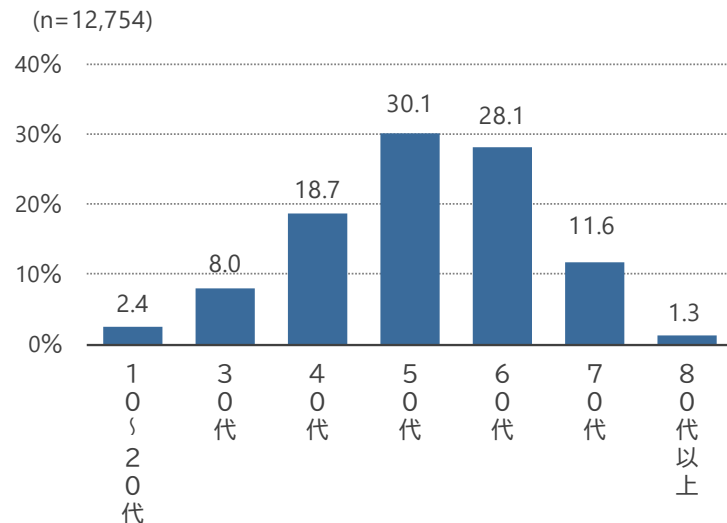
Ⅱ 調査結果

1 回答者の属性

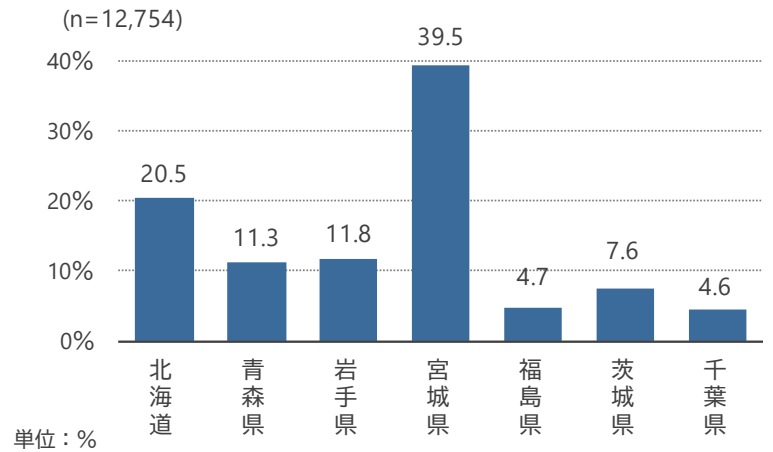
1-1 性別



1-2 年齢



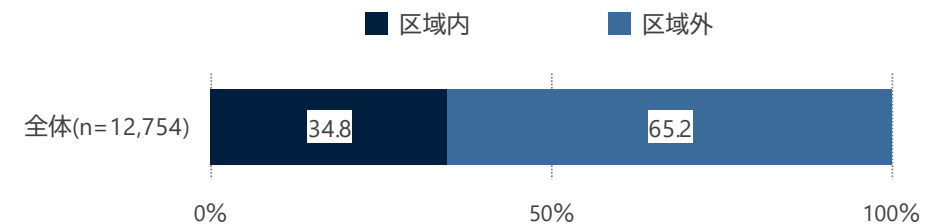
1-3 居住道県



単位：%

津波浸水想定区域別	区域内 (n=4,440)	区域外 (n=8,314)	道県別						
			北海道	青森県	岩手県	宮城県	福島県	茨城県	千葉県
区域内	31.8	20.1	4.1	23.1	5.0	9.0	6.8		
区域外	14.4	6.7	16.0	48.2	4.5	6.9	3.4		

1-4 津波浸水想定区域

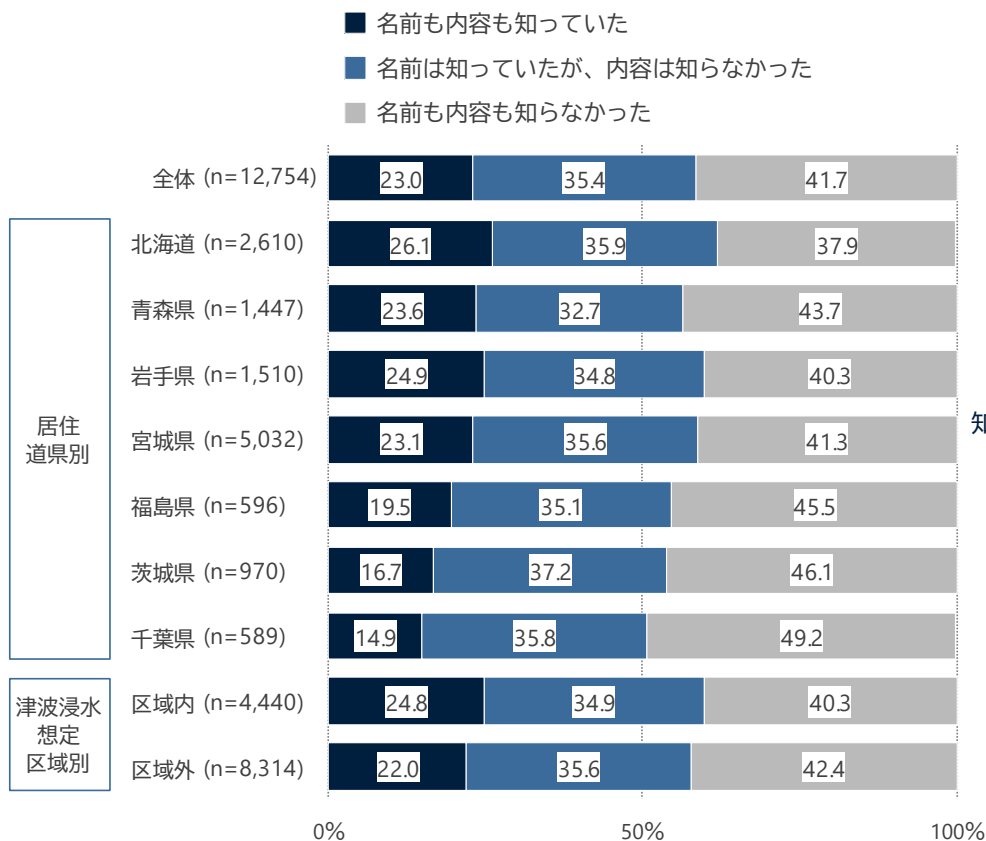


※アンケート回答者の居住地（郵便番号）に紐づく住所区域に対して、国土数値情報ダウンロードサイト（<https://nlftp.mlit.go.jp/>）で公開されている津波浸水マップを重ね合わせ、住所区域の全部または一部が津波浸水域に触れる区域を津波浸水想定区域内、それ以外を津波浸水想定区域外と定義した

2 注意情報の認知・受け止め

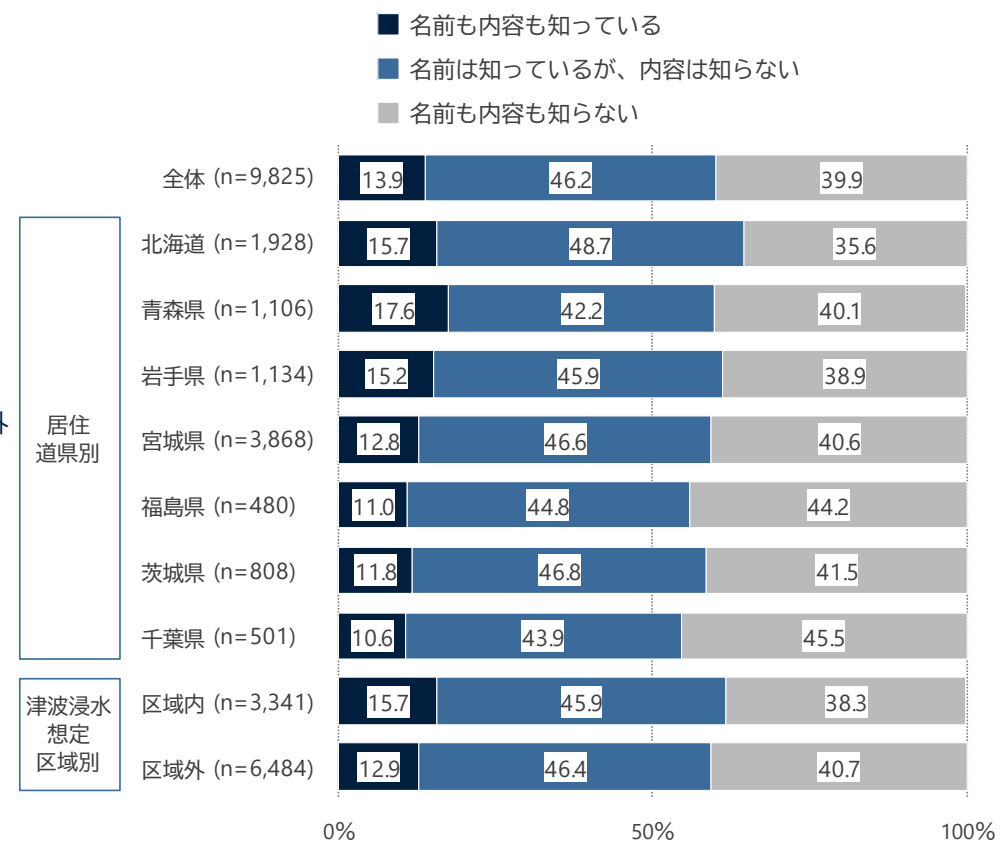
- ▶ 注意情報を今回の発表前から「名前も内容も知っていた」人は23.0%。注意情報を知らなかった人のうち、いま「名前も内容も知っている」人（13.9%）は1割程度であり、いまも「名前も内容も知らない」人（39.9%）が約4割
- ▶ 北海道・青森県・岩手県・宮城県では発表前から「名前も内容も知っていた」人が福島県以南よりもやや高い。いま「名前も内容も知っている」人もおおむね同様の傾向
- ▶ 津波浸水想定区域別では、区域内の「名前も内容も知っていた（知っている）」が区域外に比べ僅かに高い

2-1 今回の発表前に注意情報について知っていたか



「名前も内容も知っていた」以外の方

2-2 いま、注意情報についてどの程度知っているか

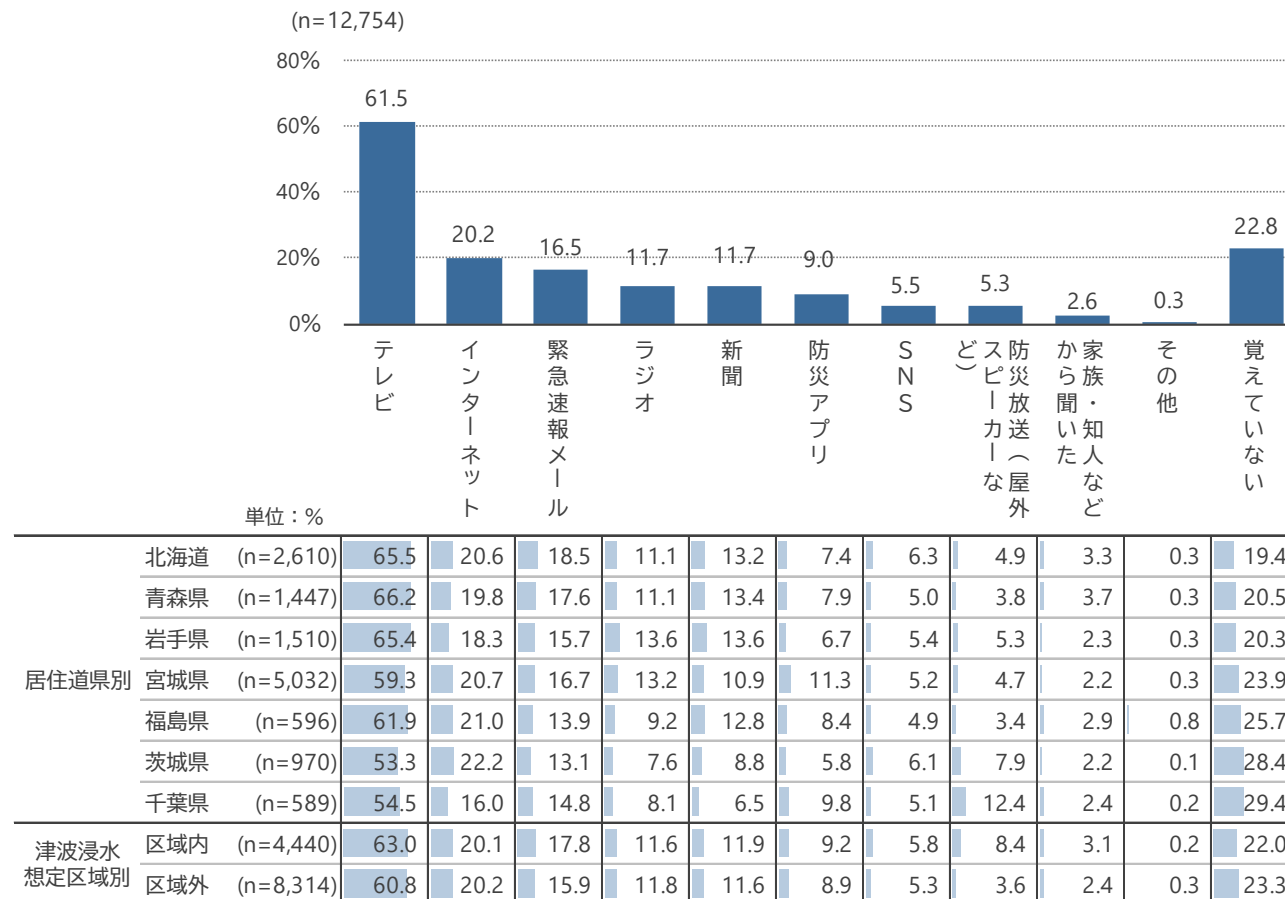


2 注意情報の認知・受け止め

- ▶ 注意情報に関する情報源は「テレビ」(61.5%)が突出しており、次いで「インターネット」(20.2%)、「緊急速報メール」(16.5%)
- ▶ おおむね南部に位置する県になるにつれて「覚えていない」の割合が高くなる傾向がある
- ▶ 津波浸水想定区域別では、特徴的な傾向はみられない

2-3 注意情報の発表やその内容についての情報源

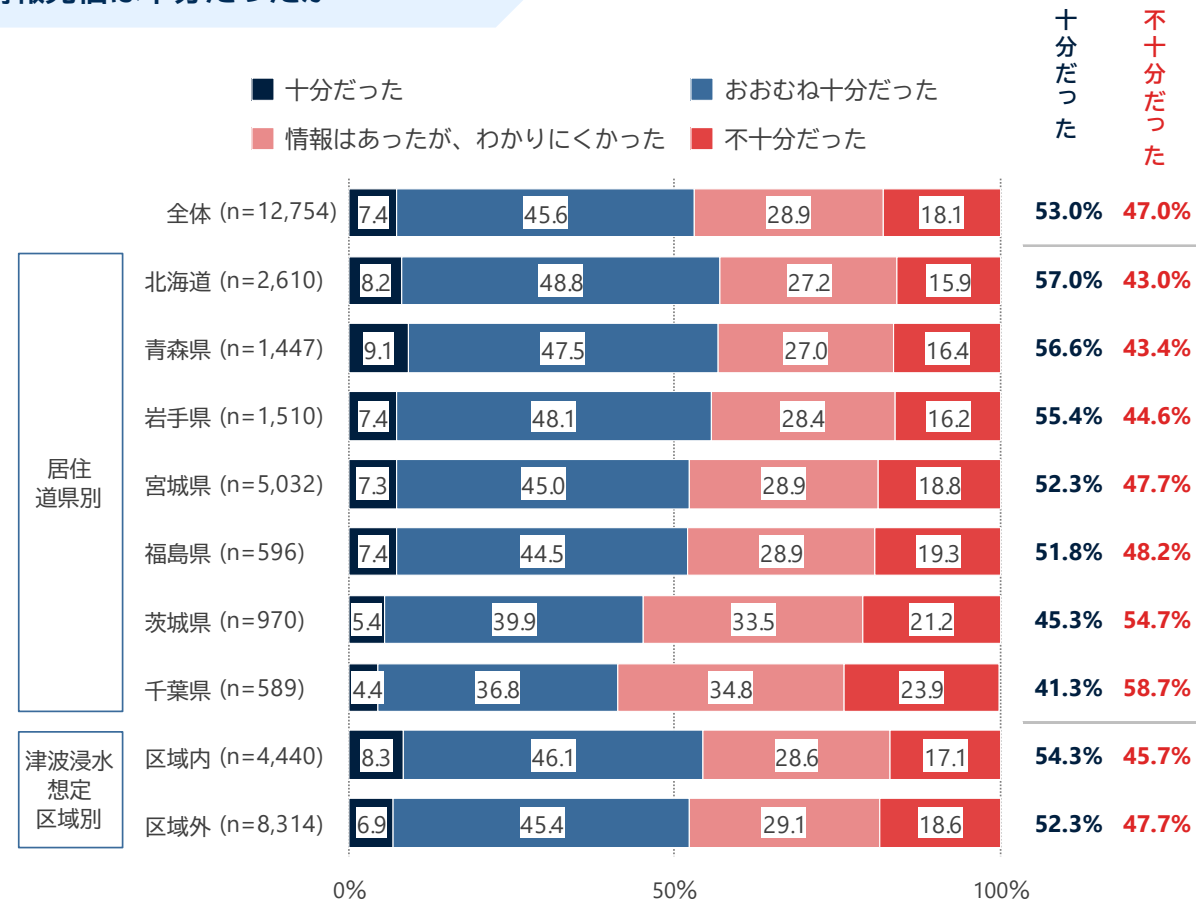
複数選択可



2 注意情報の認知・受け止め

- ▶ 公的機関の情報発信が十分だったと感じる人が53.0%、不十分だったと感じる人が47.0%
- ▶ おおむね南部に位置する県になるにつれて十分だったと感じる割合が低くなる傾向がある
- ▶ 津波浸水想定区域別では、区域内において十分だったと感じる割合が区域外に比べ僅かに高い

2-4 公的機関からの情報発信は十分だったか

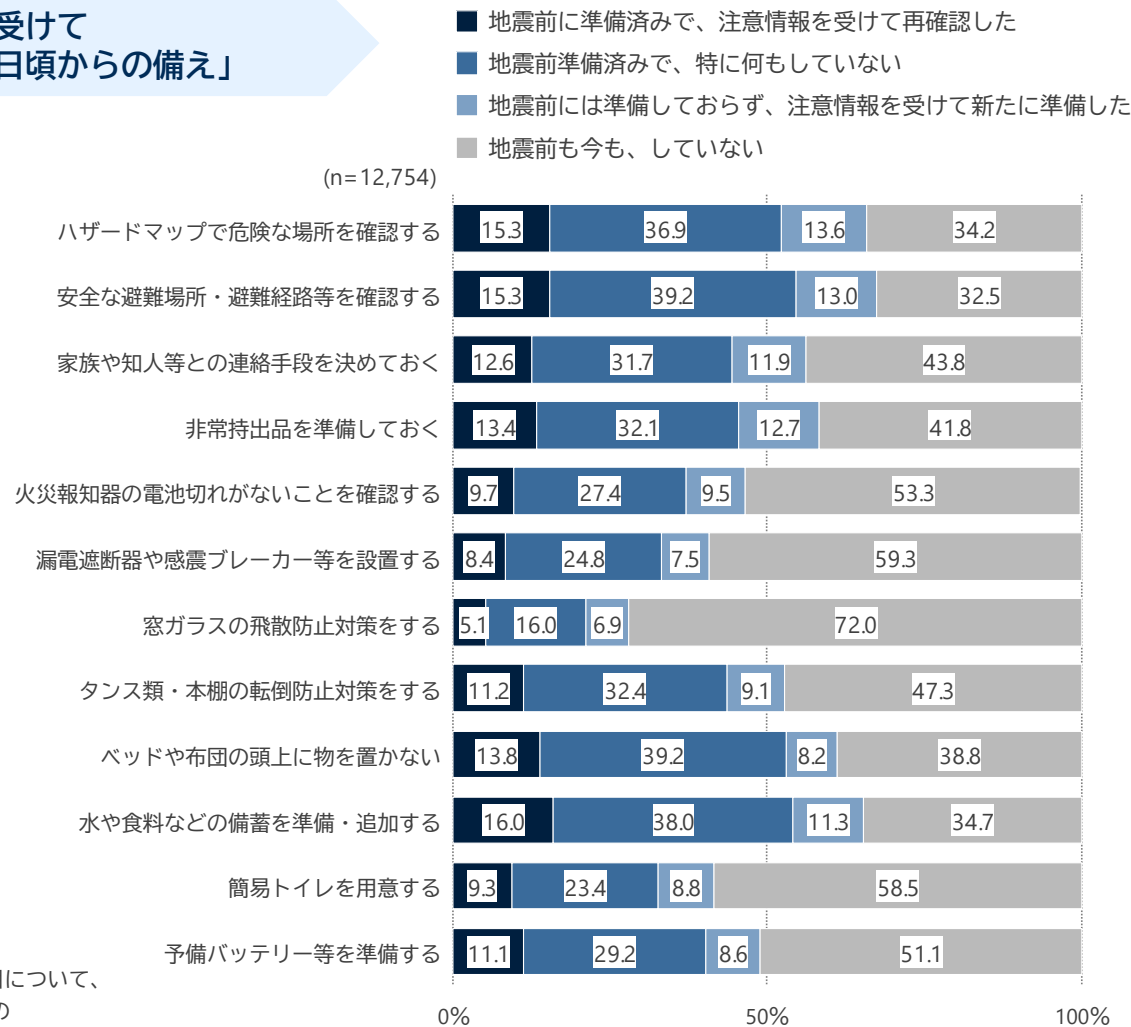


※グラフ右の数値は、類似した2つの選択肢の回答割合の合算値
なお、四捨五入の関係で、合算値が個々の回答割合の単純な足し上げ値と一致しない場合がある

3 具体的な防災行動

- ▶ 日頃からの備えについて、「注意情報を受けて再確認した」「注意情報を受けて新たに準備した」はいずれの項目も1割前後
- ▶ 「地震前準備済みで、特に何もしていない」は3～4割の項目が多い一方、『窓ガラスの飛散防止対策をする』（16.0%）など回答割合が低い項目もみられ、項目間の差が大きい
- ▶ 「地震前も今も、していない」は『窓ガラスの飛散防止対策をする』（72.0%）が最も高い。次いで『漏電遮断器や感震ブレーカー等を設置する』や『簡易トイレを用意する』が約6割

3-1 注意情報の発表を受けて確認・準備した「日頃からの備え」



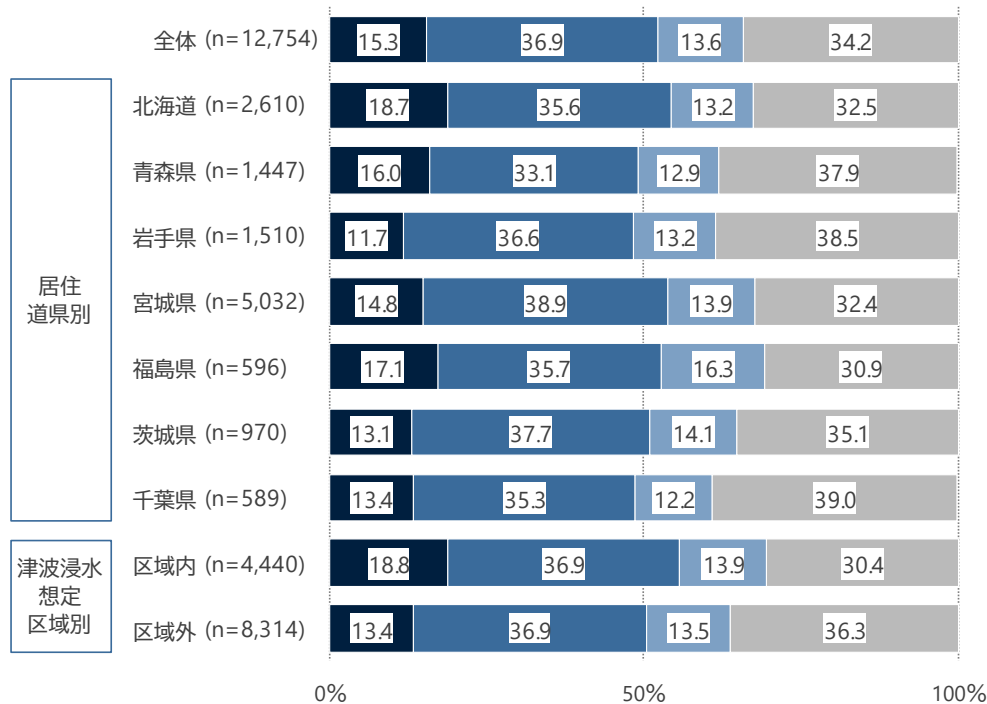
※日頃からの備えの実施状況を尋ねた12項目について、全体結果のみを集約してグラフ化したもの

3 具体的な防災行動

- ▶ 3-1-1～3-1-12では、前頁3-1の各項目のクロス集計結果を掲載する
- ▶ 『ハザードマップで危険な場所を確認する』『安全な避難場所・避難経路等を確認する』のどちらも、青森県・岩手県・千葉県の「地震前も今も、していない」が他の道県に比べやや高い
- ▶ 同じくどちらも、津波浸水想定区域内の「注意情報を受けて再確認した」が区域外に比べやや高い一方、区域外では「地震前も今も、していない」がやや高い

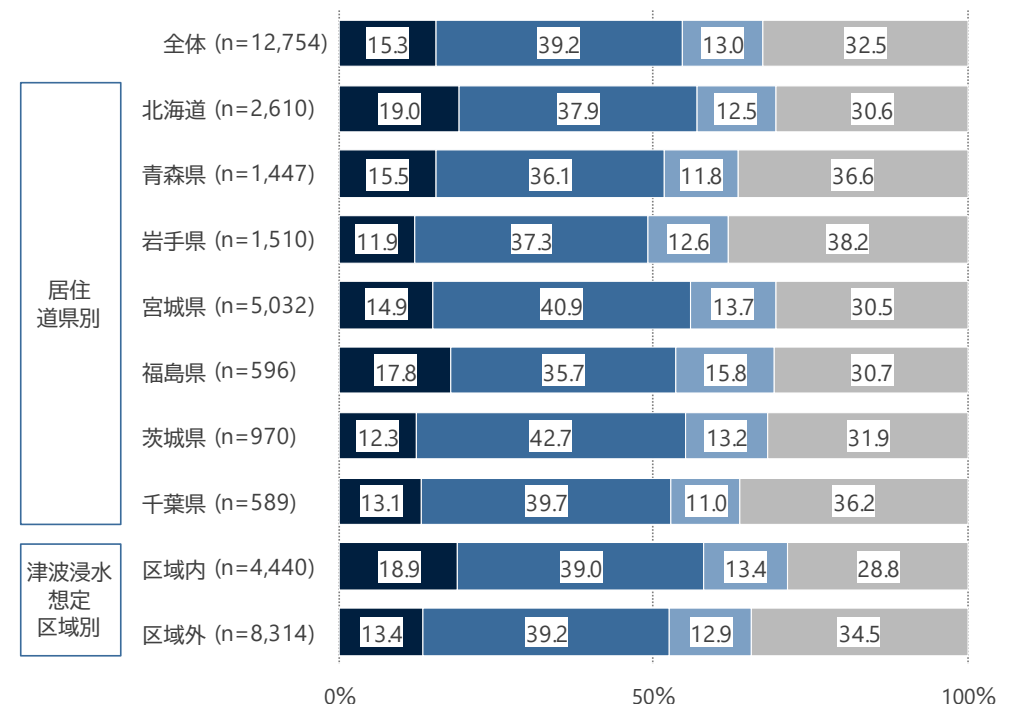
3-1-1 ハザードマップで危険な場所を確認する

- 地震前に準備済みで、注意情報を受けて再確認した
- 地震前準備済みで、特に何もしていない
- 地震前には準備しておらず、注意情報を受けて新たに準備した
- 地震前も今も、していない



3-1-2 安全な避難場所・避難経路等を確認する

- 地震前に準備済みで、注意情報を受けて再確認した
- 地震前準備済みで、特に何もしていない
- 地震前には準備しておらず、注意情報を受けて新たに準備した
- 地震前も今も、していない

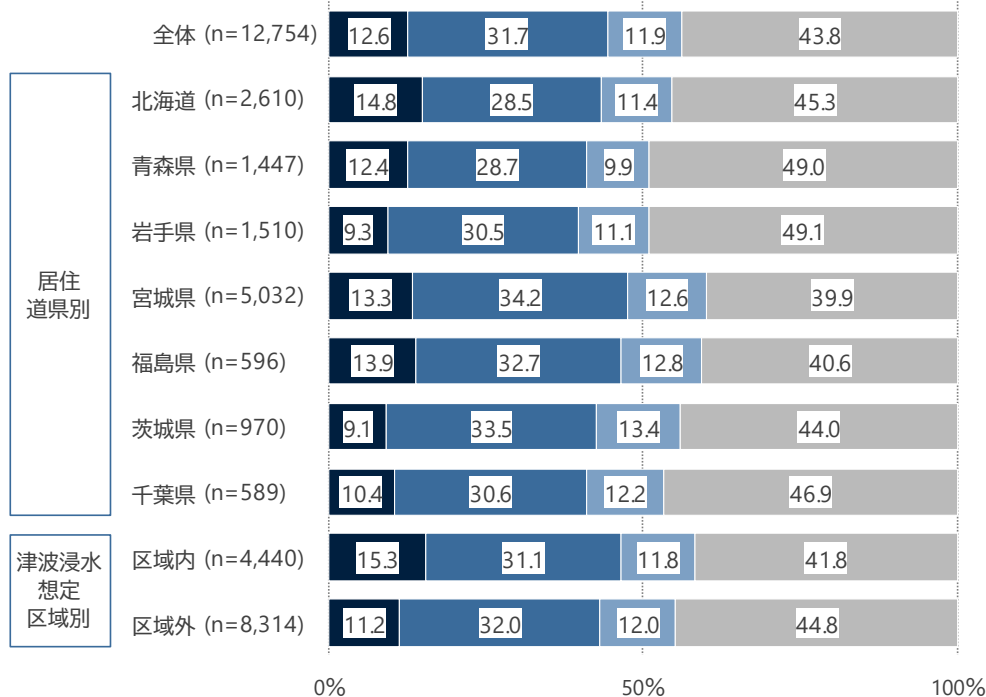


3 具体的な防災行動

- ▶ 『家族や知人等との連絡手段を決めておく』『非常持出品を準備しておく』のどちらも、青森県・岩手県の「地震前も今も、していない」が他の道県に比べやや高い
- ▶ 同じくどちらも、津波浸水想定区域内の「注意情報を受けて再確認した」が区域外に比べやや高い一方、区域外では「地震前も今も、していない」がやや高い

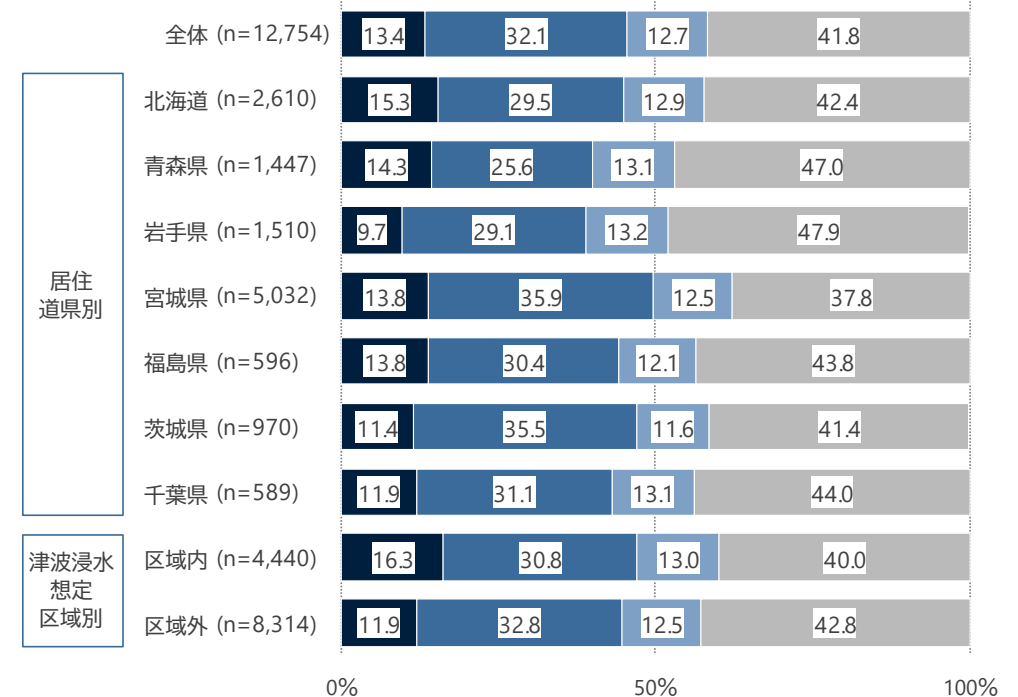
3-1-3 家族や知人等との連絡手段を決めておく

- 地震前に準備済みで、注意情報を受けて再確認した
- 地震前準備済みで、特に何もしていない
- 地震前には準備しておらず、注意情報を受けて新たに準備した
- 地震前も今も、していない



3-1-4 非常持出品を準備しておく

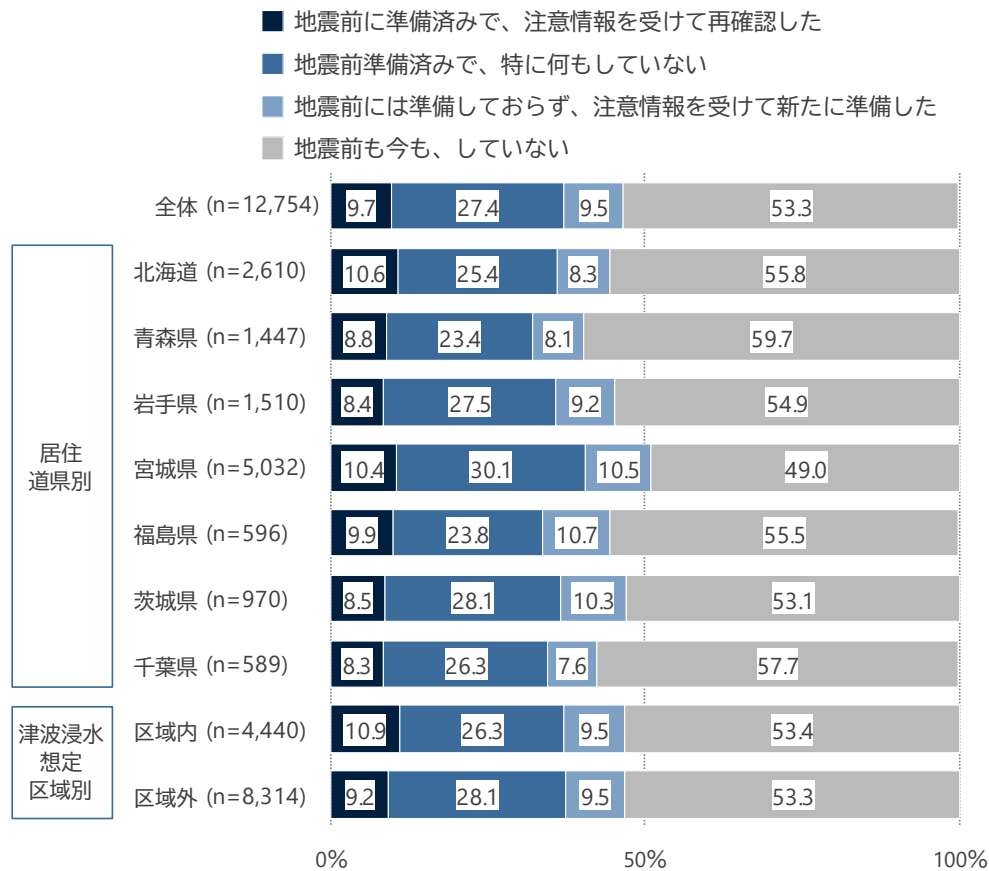
- 地震前に準備済みで、注意情報を受けて再確認した
- 地震前準備済みで、特に何もしていない
- 地震前には準備しておらず、注意情報を受けて新たに準備した
- 地震前も今も、していない



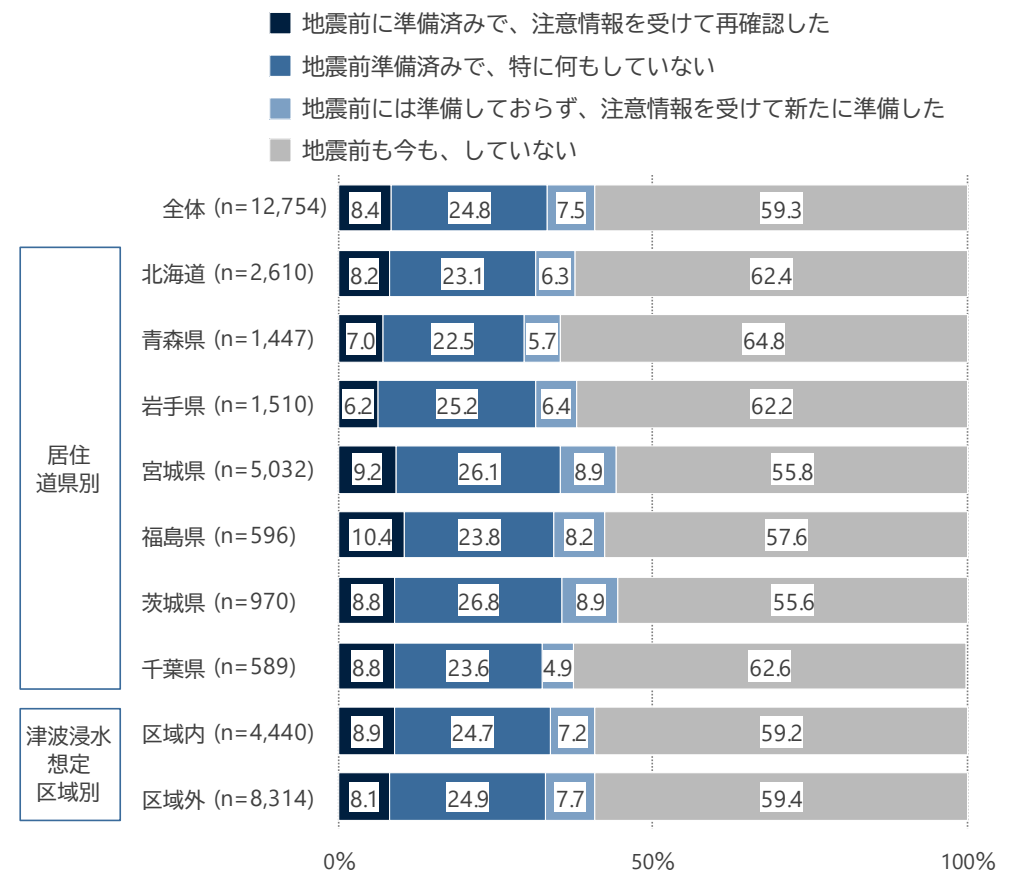
3 具体的な防災行動

- ▶ 『火災報知器の電池切れがないことを確認する』『漏電遮断器や感震ブレーカー等を設置する』のどちらも、青森県の「地震前も今も、していない」が道県内で最も高く、宮城県・茨城県ではやや低い
- ▶ どちらも、津波浸水想定区域別では特徴的な傾向はみられない

3-1-5 火災報知器の電池切れがないことを確認する



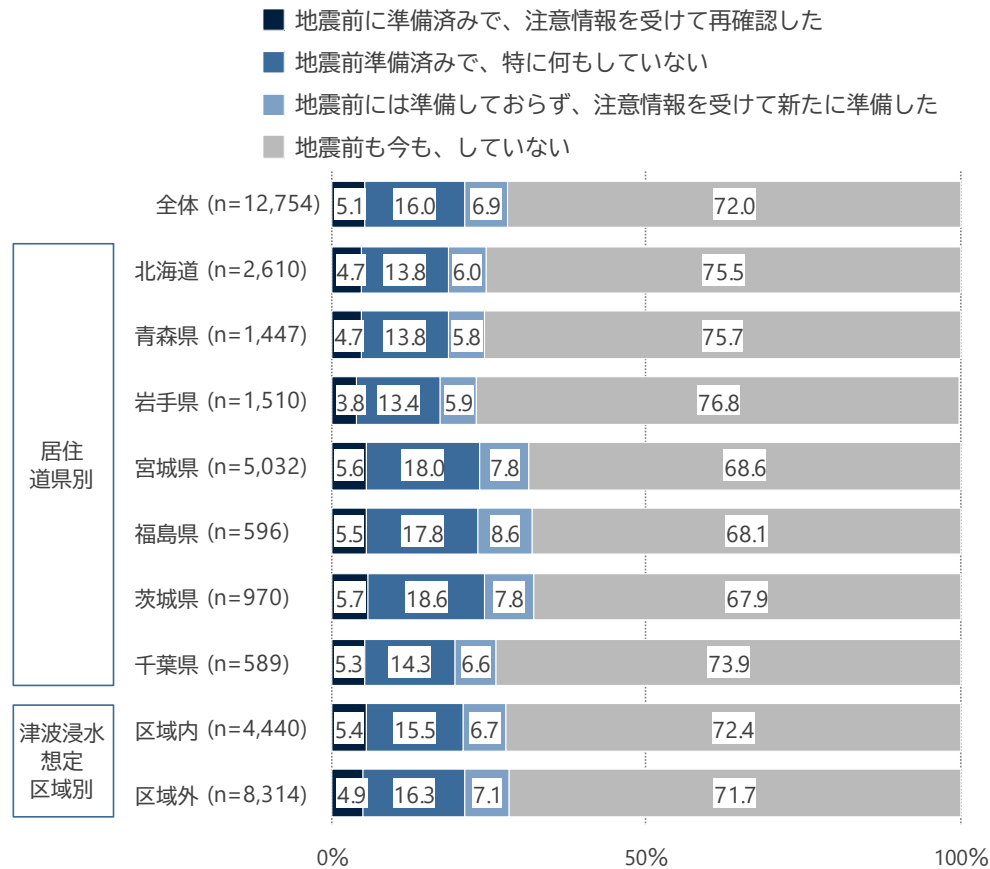
3-1-6 漏電遮断器や感震ブレーカー等を設置する



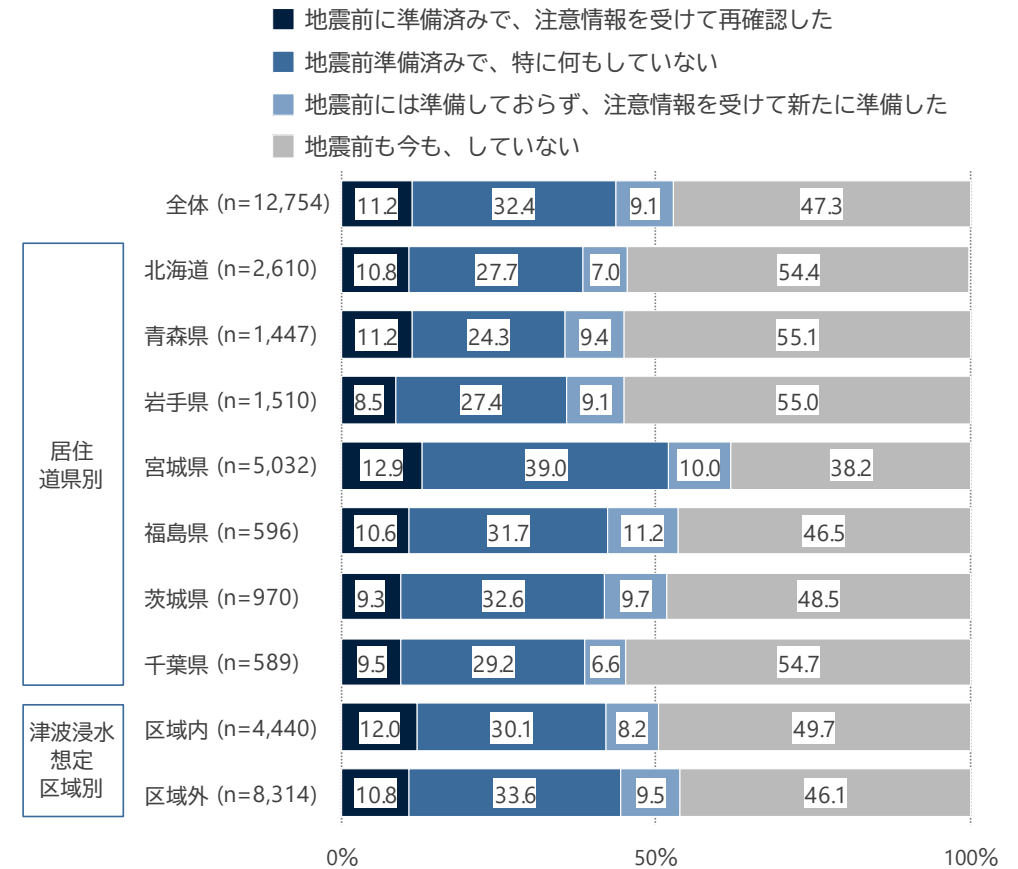
3 具体的な防災行動

- ▶ 『窓ガラスの飛散防止対策をする』では宮城県・福島県・茨城県の「地震前準備済みで、特に何もしていない」が他の道県に比べやや高い。『タンス類・本棚の転倒防止対策をする』では宮城県のみ「地震前準備済みで、特に何もしていない」が約4割と他の道県に比べ高い
- ▶ 津波浸水想定区域別にみると、『窓ガラスの飛散防止対策をする』では特徴的な傾向はみられない。『タンス類・本棚の転倒防止対策をする』では区域内の「地震前も今も、していない」が区域外に比べやや高い

3-1-7 窓ガラスの飛散防止対策をする



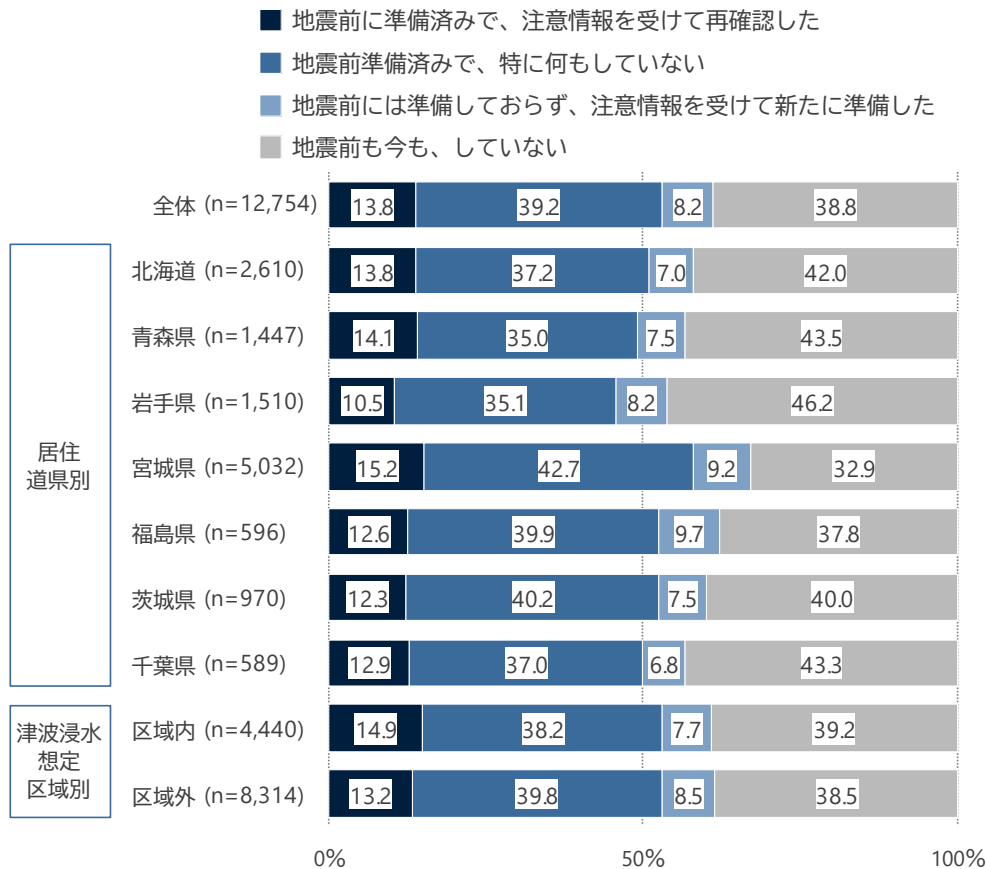
3-1-8 タンス類・本棚の転倒防止対策をする



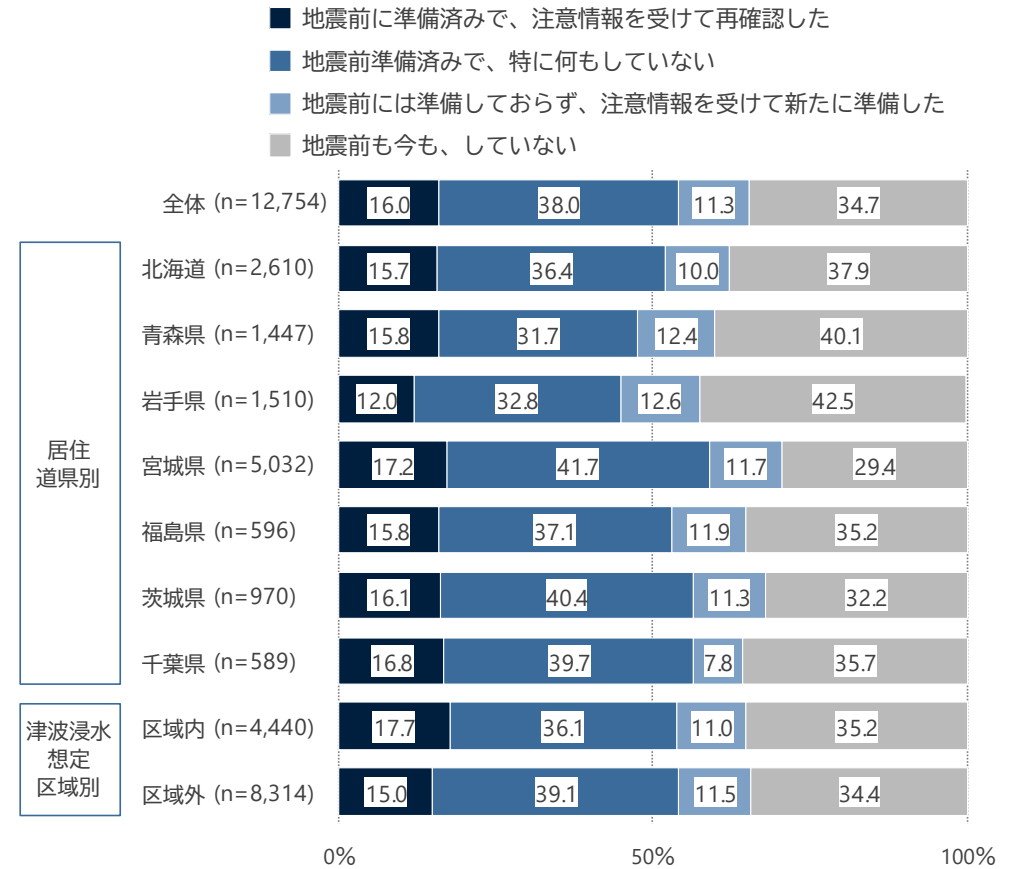
3 具体的な防災行動

- ▶ 『ベッドや布団の頭上に物を置かない』『水や食料などの備蓄を準備・追加する』のどちらも、宮城県の「地震前も今も、していない」が他の道県に比べ低い
- ▶ 津波浸水想定区域別にみると、『ベッドや布団の頭上に物を置かない』では特徴的な傾向はみられない。『水や食料などの備蓄を準備・追加する』では区域内の「注意情報を受けて再確認した」が区域外に比べ僅かに高い

3-1-9 ベッドや布団の頭上に物を置かない



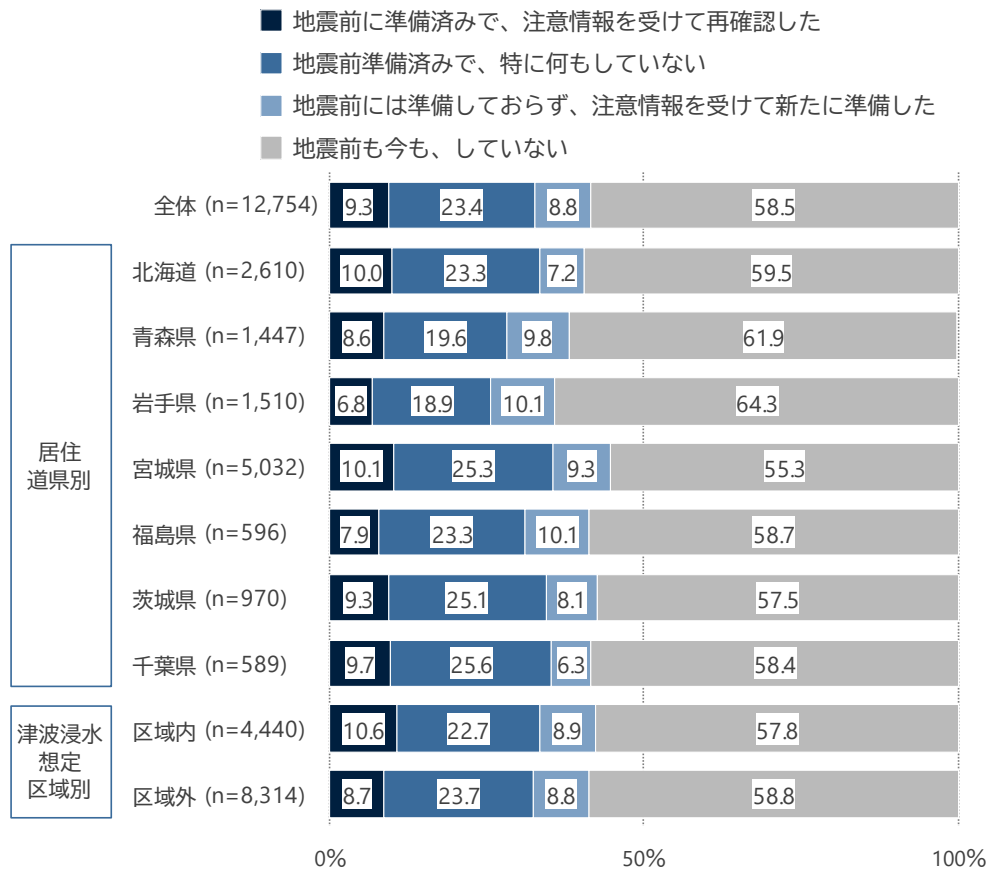
3-1-10 水や食料などの備蓄を準備・追加する



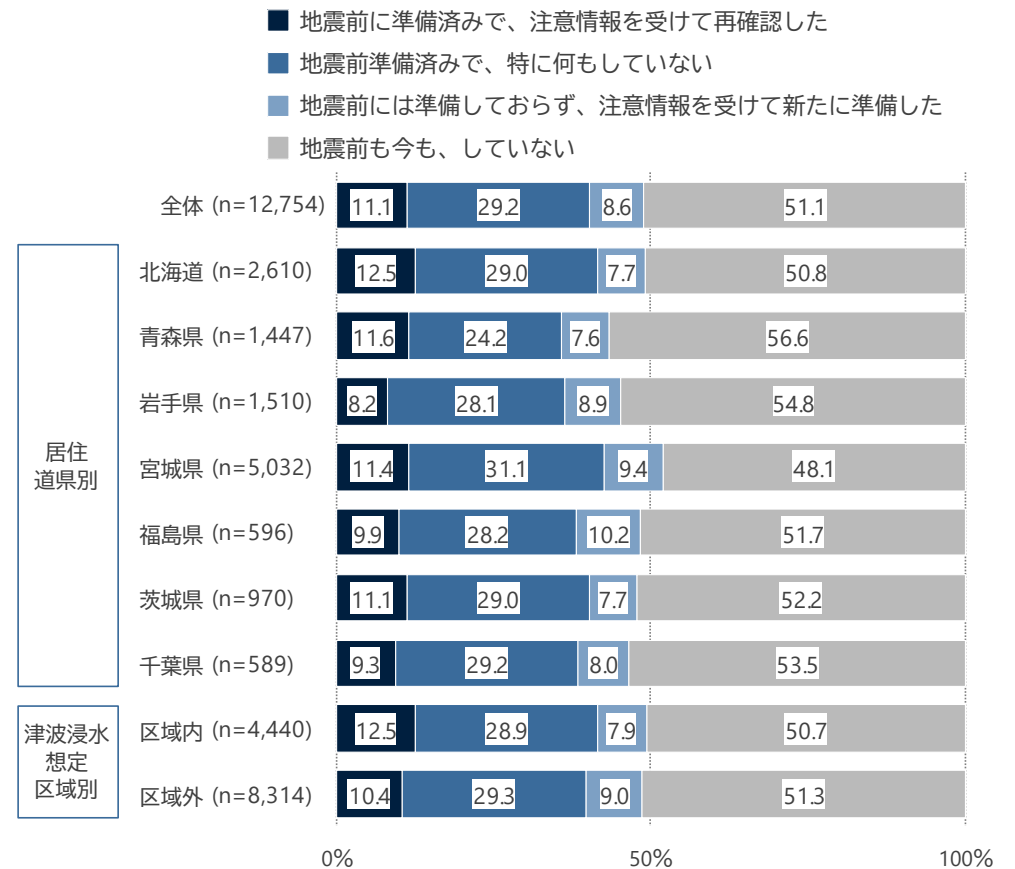
3 具体的な防災行動

- ▶ 『簡易トイレを用意する』『予備バッテリー等を準備する』のどちらも、宮城県の「地震前も今も、していない」が他の道県に比べやや低い
- ▶ どちらも、津波浸水想定区域別では特徴的な傾向はみられない

3-1-11 簡易トイレを用意する



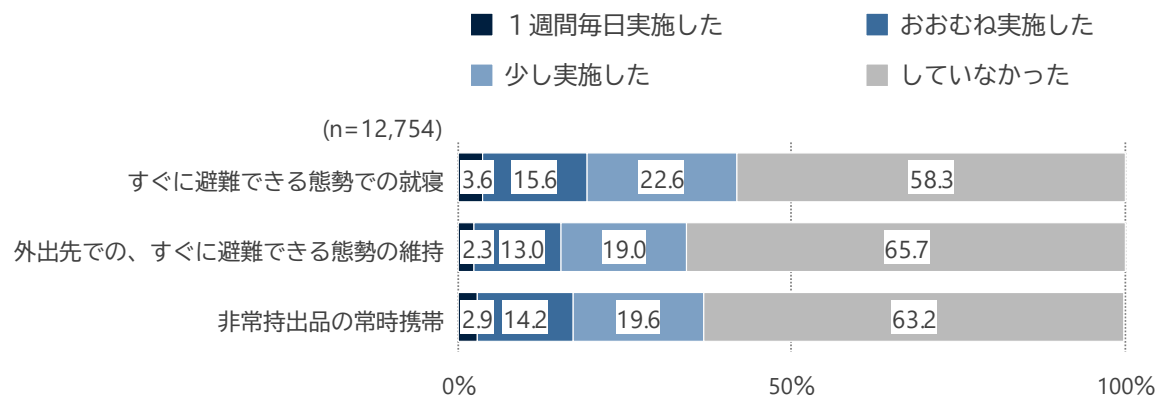
3-1-12 予備バッテリー等を準備する



3 具体的な防災行動

- ▶ 特別な備えについて、いずれの項目でも毎日・おおむね・少し実施した割合は合わせて約3～4割

3-2 注意情報の発表期間中に実施した「特別な備え」

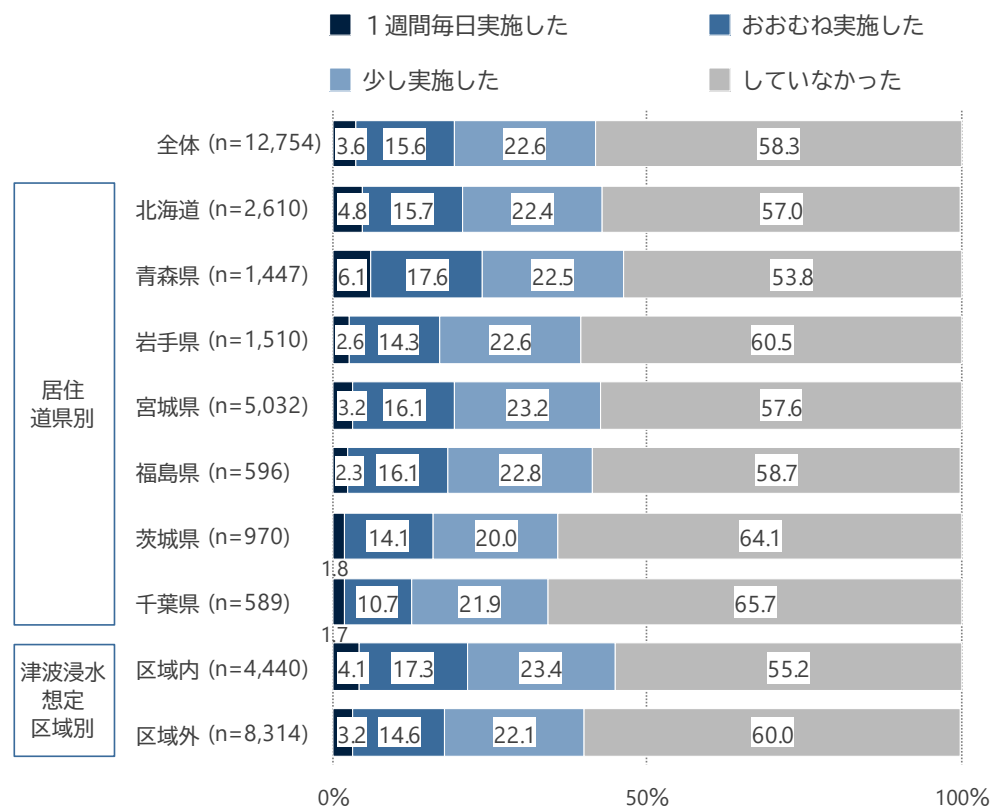


※特別な備えの実施状況を尋ねた3項目について、全体結果のみを集約してグラフ化したもの

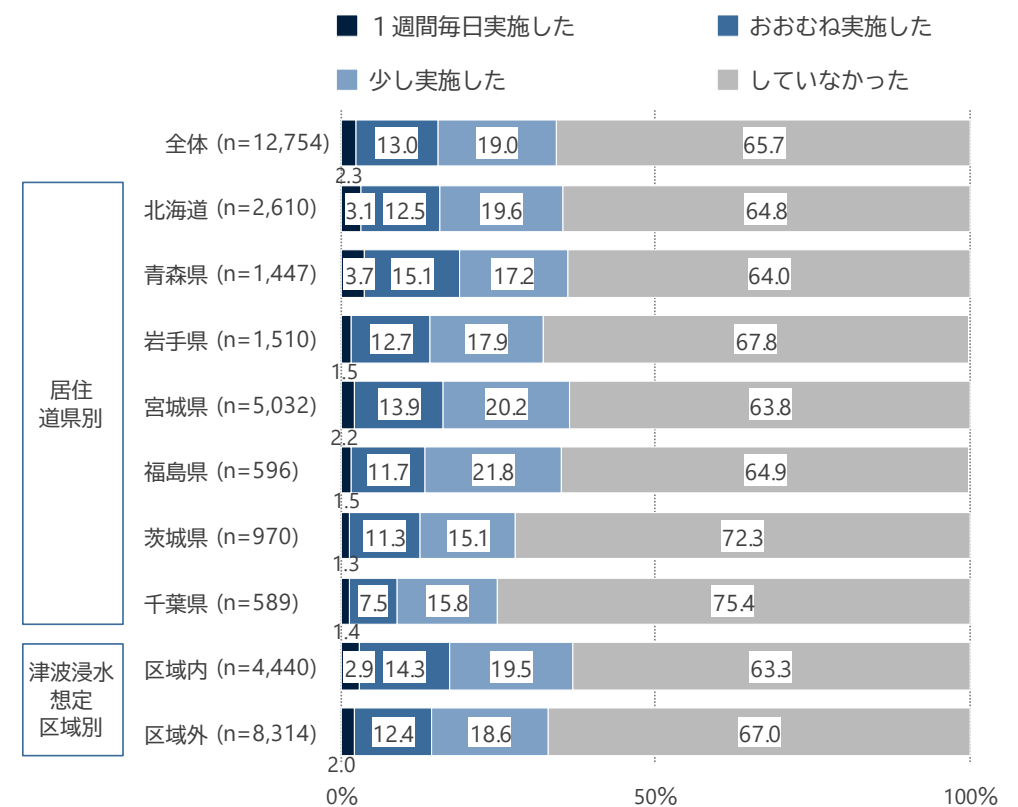
3 具体的な防災行動

- ▶ 3-2-1～3-2-3では、前頁3-2の各項目のクロス集計結果を掲載する
- ▶ 『すぐに避難できる態勢での就寝』『外出先での、すぐに避難できる態勢の維持』のどちらも、茨城県・千葉県で特別な備えを実施した割合が他の道県に比べやや低い
- ▶ 同じくどちらも、津波浸水想定区域内で特別な備えを実施した割合が区域外に比べやや高い

3-2-1 すぐに避難できる態勢での就寝



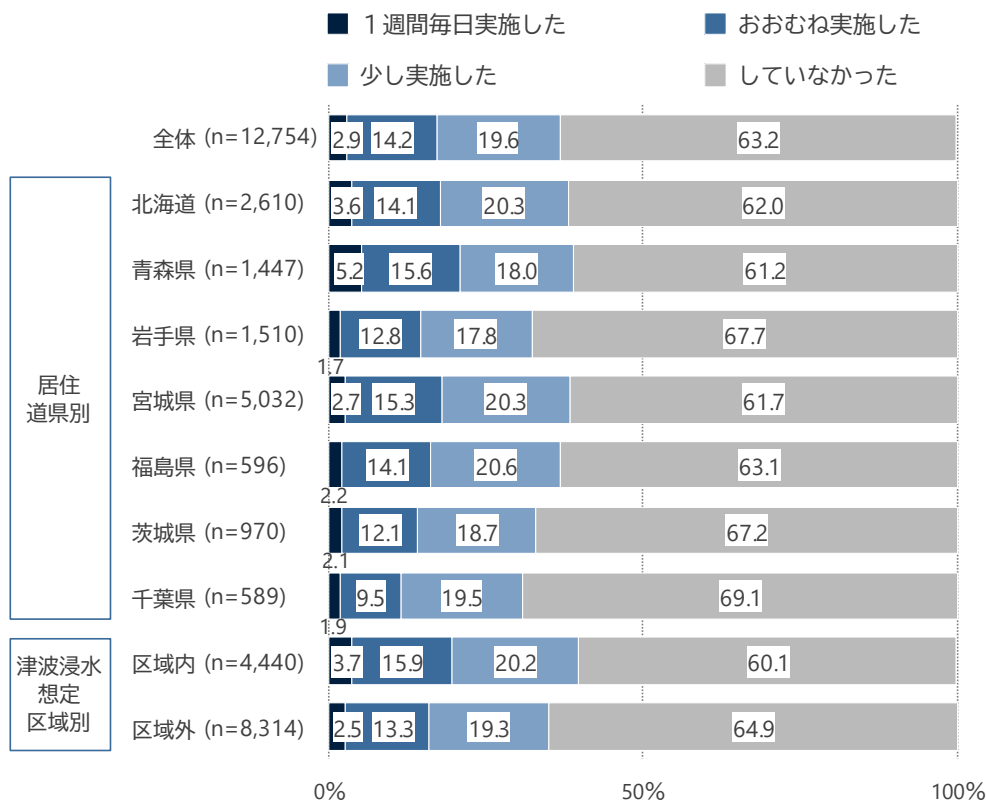
3-2-2 外出先での、すぐに避難できる態勢の維持



3 具体的な防災行動

- ▶ 『非常持出品の常時携帯』では、岩手県・茨城県・千葉県で特別な備えを実施した割合が他の道県に比べやや低い
- ▶ 津波浸水想定区域別にみると、区域内で特別な備えを実施した割合が区域外に比べやや高い

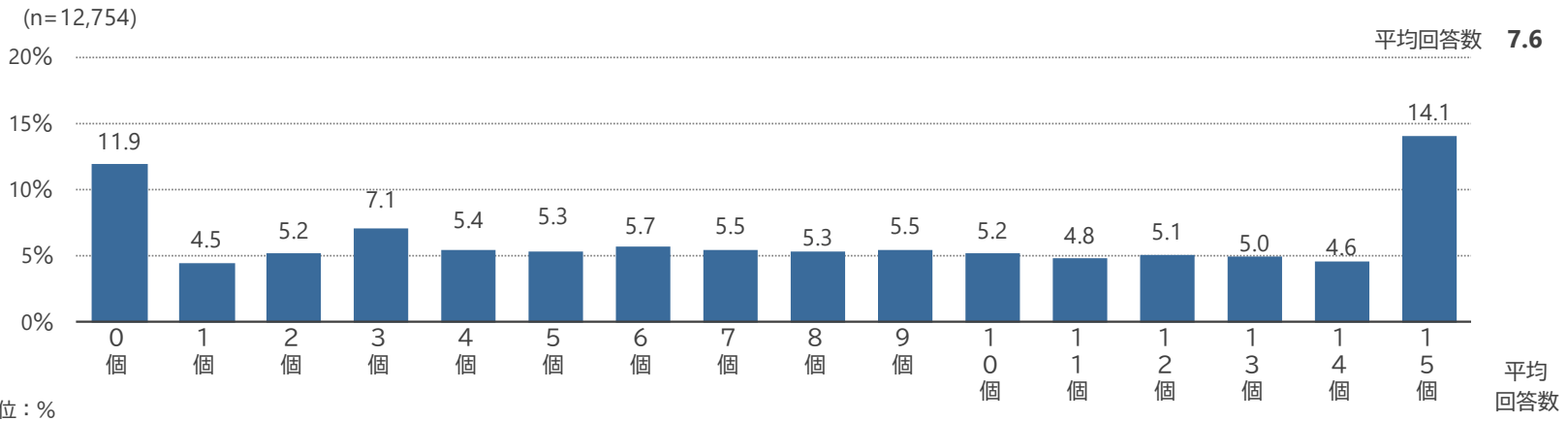
3-2-3 非常持出品の常時携帯



3 具体的な防災行動

- ▶ 前頁までの日頃からの備え・特別な備えで「地震前も今も、していない」「していなかった」の回答数を算出した（最小0個、最大15個）
- ▶ 最も多かったのは「15個」（=1つも準備・実施していない人）で14.1%、次いで「0個」（=すべて準備・実施した人）が11.9%という結果となった。平均回答数は7.6個で、宮城県（平均7.0個）が最も少なく、岩手県（平均8.3個）が最も多くなった
- ▶ 津波浸水想定区域別では特徴的な傾向はみられない

3-3-1 日頃からの備え・特別な備えで「地震前も今も、していない」「していなかった」の回答数



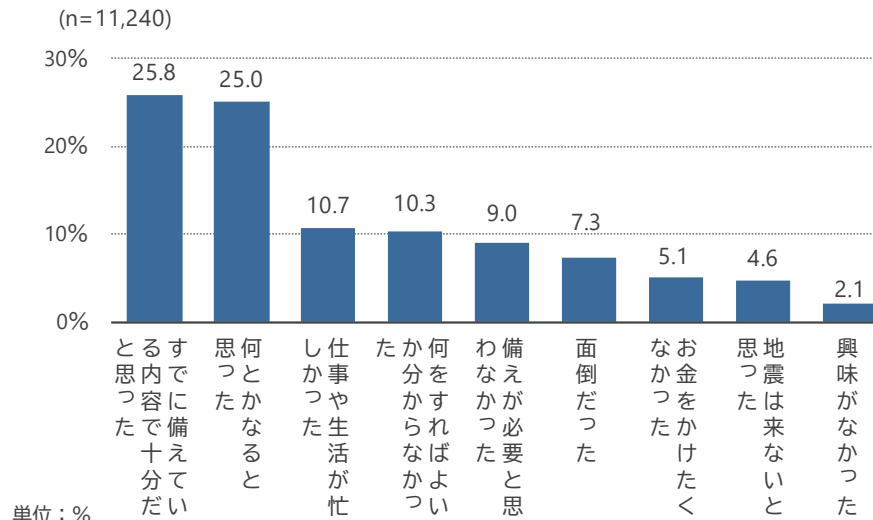
居住道県別	人数 (n)	0個	1個	2個	3個	4個	5個	6個	7個	8個	9個	10個	11個	12個	13個	14個	15個	平均回答数
北海道	(n=2,610)	11.1	4.5	5.0	6.4	5.3	5.4	5.5	5.6	5.2	5.9	4.8	4.9	5.9	5.4	3.8	15.2	7.7
青森県	(n=1,447)	11.1	4.4	4.7	5.2	4.9	3.7	5.2	6.2	5.5	5.2	5.5	6.2	5.3	5.2	6.2	15.5	8.1
岩手県	(n=1,510)	10.1	3.0	4.6	6.6	4.7	5.6	4.8	4.4	5.2	6.0	5.4	5.2	6.5	5.3	5.2	17.5	8.3
宮城県	(n=5,032)	13.2	5.2	5.9	7.6	5.8	5.6	6.3	5.9	4.9	5.2	5.1	4.2	4.5	4.5	4.3	11.7	7.0
福島県	(n=596)	13.9	4.0	5.7	7.7	5.4	5.0	5.2	3.0	6.9	4.4	4.4	4.9	4.4	5.5	4.0	15.6	7.4
茨城県	(n=970)	12.0	3.4	4.7	8.8	5.2	4.6	5.1	5.3	5.6	6.4	5.6	4.7	3.8	6.0	5.2	13.8	7.6
千葉県	(n=589)	8.0	5.3	3.2	8.0	4.9	5.9	5.9	4.6	5.8	5.1	5.8	4.4	5.8	4.8	4.9	17.7	8.2
津波浸水想定区域別																		
区域内	(n=4,440)	12.3	5.2	5.1	7.0	5.4	5.2	5.6	5.9	5.5	5.8	5.1	4.7	5.3	4.8	3.8	13.3	7.4
区域外	(n=8,314)	11.7	4.2	5.3	7.1	5.4	5.3	5.7	5.2	5.2	5.3	5.2	4.8	5.0	5.1	5.0	14.6	7.6

3 具体的な防災行動

▶ 防災行動を行わなかった理由は、「すでに備えている内容で十分だと思った」「何とかなると思った」がともに約25%と高く、居住道県別・津波浸水想定区域別のどちらも特徴的な傾向はみられない

3-3-2 防災行動を行わなかった理由

*日頃からの備え・特別な備えで1つでも「地震前も今も、していない」「していなかった」と回答した方



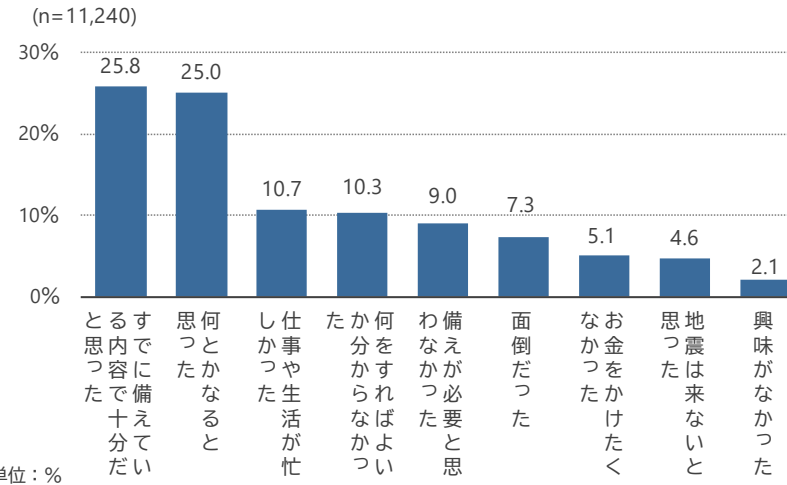
居住道県別	津波浸水想定区域別	人数 (n)	とるす思内でつ容に備たて分てだい (%)	思つとたかなると (%)	し仕か事つやた生活が忙 (%)	たか分をかすられなばかよ (%)	わ備なえかつ必要と思 (%)	面倒だつた (%)	なお金をかけたたく (%)	思つたは来ないと (%)	興味がなかつた (%)
北海道		(n=2,320)	24.9	25.3	9.8	11.2	8.8	6.8	5.3	5.1	2.8
青森県		(n=1,286)	23.2	27.8	8.3	11.2	9.6	7.5	5.4	4.6	2.4
岩手県		(n=1,358)	22.6	25.5	10.5	10.1	10.7	8.2	6.3	4.6	1.5
宮城県		(n=4,367)	29.2	23.7	12.2	9.5	8.3	6.7	4.7	3.9	1.9
福島県		(n=513)	24.4	26.9	11.5	9.9	6.4	8.6	5.1	5.1	2.1
茨城県		(n=854)	23.1	23.7	9.8	11.1	10.1	9.7	4.6	5.4	2.6
千葉県		(n=542)	23.1	26.8	10.0	10.3	10.7	6.8	4.8	5.7	1.8
津波浸水想定区域別	区域内	(n=3,896)	26.3	25.0	10.0	10.4	8.3	7.1	5.4	5.3	2.2
	区域外	(n=7,344)	25.6	24.9	11.1	10.3	9.4	7.5	4.9	4.2	2.1

3 具体的な防災行動

- ▶ 防災行動を行わなかった理由について、前述の日頃からの備え・特別な備えで「地震前も今も、していない」「していなかった」の回答数別にクロス集計を行った
- ▶ おおむね回答数が少ないほど「すでに備えている内容で十分だと思った」の割合が高くなる一方、回答数が多いほど「何とかかなと思った」「備えが必要と思わなかった」「面倒だった」の割合が高くなり、回答数が15個（＝1つも準備・実施していない人）では5割以上が「何とかかなと思った」と回答している

3-3-3 防災行動を行わなかった理由

*日頃からの備え・特別な備えで1つでも「地震前も今も、していない」「していなかった」と回答した方



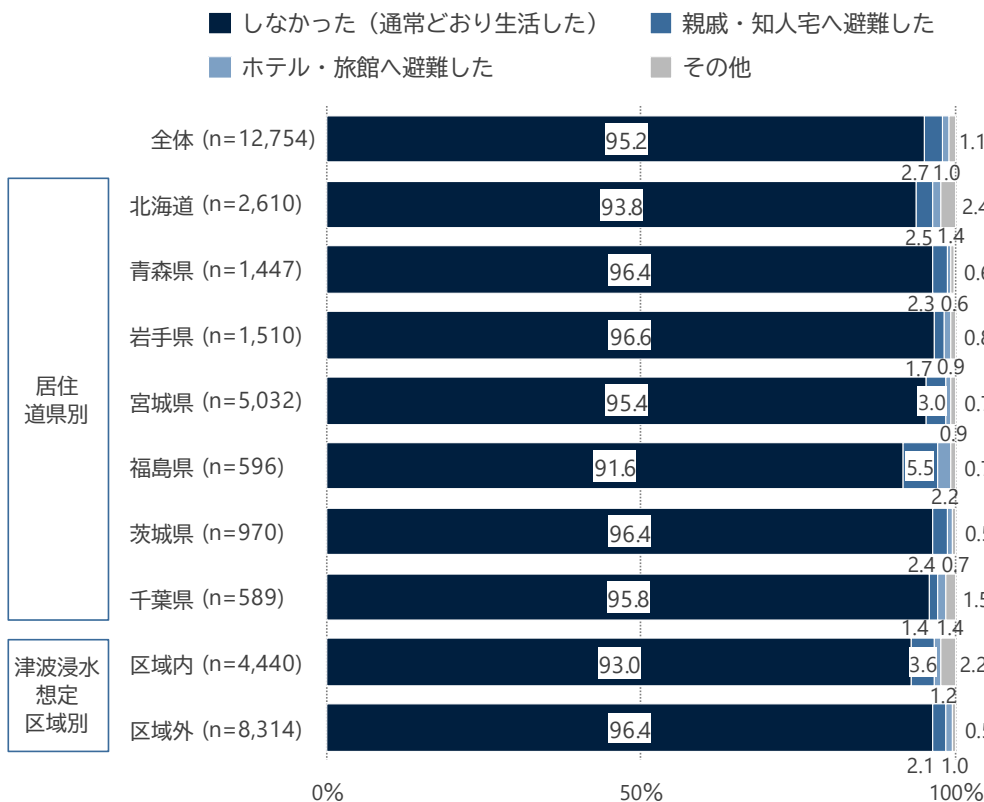
回答数別	人数 (n)	とるす 思内 つで 容に た備 た十 分え だて だい	思何 つと たか かな る と	し仕 か事 つや た生 活が 忙	たか 分を から られ なば かよ い	何を す ら な ば か よ い	わ備 なえ が 必 要 と 思	面 倒 だ つ た	な か つ た け た く	お 金 を か け た く	思 地 つ 震 は 来 な い と	興 味 が な か つ た
1個	(n=579)	47.7	8.1	14.3	11.9	3.8	4.5	4.3	4.5	0.9		
2個	(n=666)	49.5	10.1	10.7	10.4	6.3	3.6	4.8	3.8	0.9		
3個	(n=901)	38.8	14.2	13.4	10.5	7.9	4.6	4.2	4.9	1.4		
4個	(n=686)	48.0	10.5	13.1	9.2	5.0	5.0	4.5	3.4	1.5		
5個	(n=673)	44.6	12.9	13.2	8.5	6.5	3.4	6.2	4.0	0.6		
6個	(n=721)	38.6	16.0	12.1	10.8	6.5	6.0	3.6	5.8	0.7		
7個	(n=696)	34.9	15.8	11.5	12.2	8.6	5.6	4.9	5.7	0.7		
8個	(n=672)	29.8	19.9	12.2	11.3	10.0	7.0	3.9	4.8	1.2		
9個	(n=700)	26.3	17.9	10.9	12.3	11.1	8.9	7.1	4.1	1.4		
10個	(n=659)	19.3	25.5	12.1	10.0	11.5	7.1	5.9	6.8	1.7		
11個	(n=610)	15.6	26.6	7.2	13.8	10.3	11.3	7.0	6.1	2.1		
12個	(n=651)	10.8	30.3	11.7	12.1	11.5	9.7	5.7	6.1	2.2		
13個	(n=639)	7.0	32.1	12.1	10.3	11.4	10.6	6.4	5.5	4.5		
14個	(n=583)	5.7	37.0	9.4	10.3	13.4	10.6	7.2	2.7	3.6		
15個	(n=1,804)	2.4	54.0	5.3	7.0	10.1	9.7	3.8	2.9	4.8		

「地震前も今も、していない」「していなかった」の回答数別

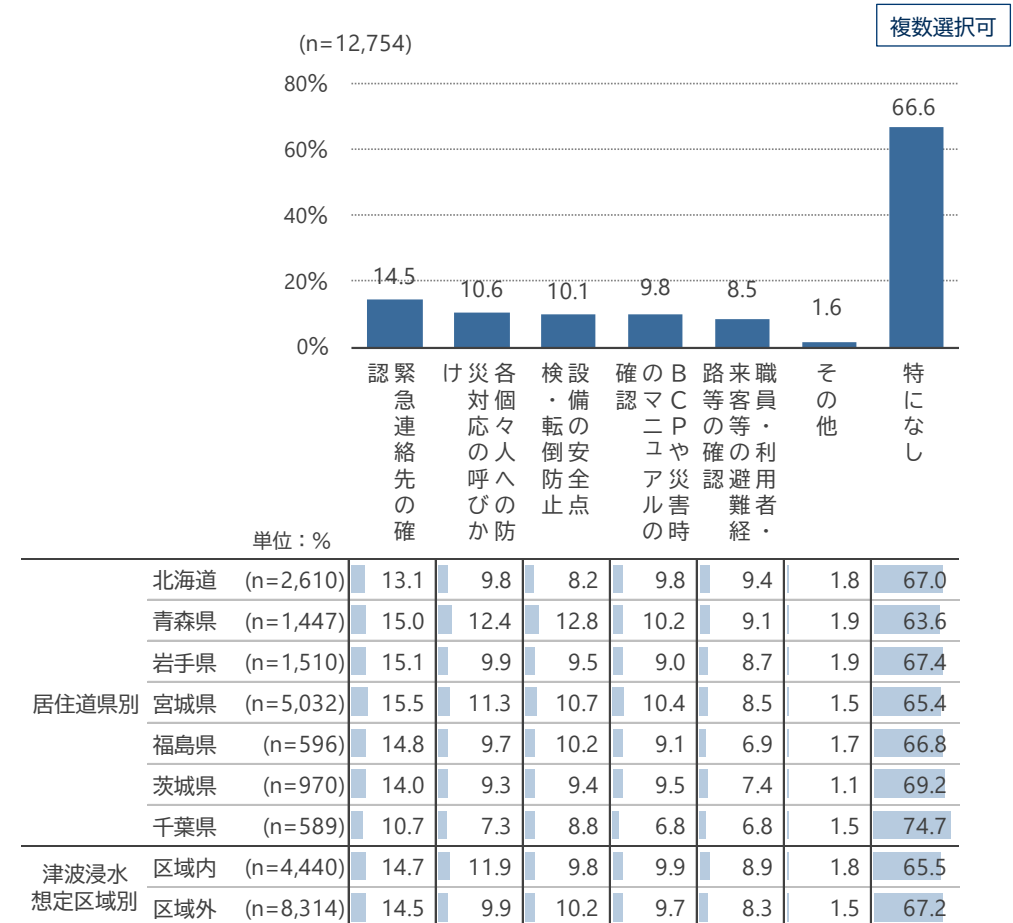
3 具体的な防災行動

- ▶ 注意情報を受けての自主避難は「しなかった」(95.2%)が大多数で、居住道県別・津波浸水想定区域別のどちらも特徴的な傾向はみられない
- ▶ 注意情報を受けて所属する組織・施設等で行われた防災対応は「特になし」(66.6%)が6割台半ばを占めるが、それ以外では「緊急連絡先の確認」(14.5%)が最も高く、いずれの項目も1割前後の実施率。居住道県別では千葉県の「特になし」が他の道県に比べやや高く、津波浸水想定区域別では特徴的な傾向はみられない

3-4 注意情報を受けて自主避難を行ったか



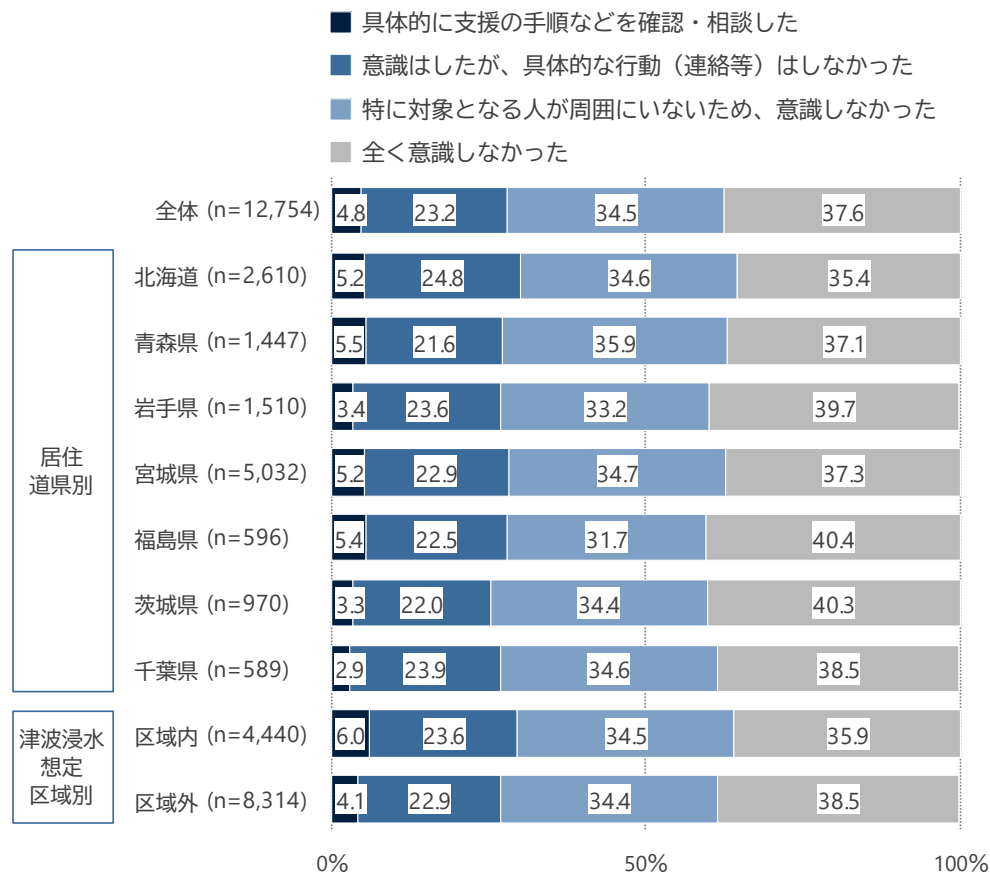
3-5 注意情報を受けて職場や学校、施設等で行われた防災対応



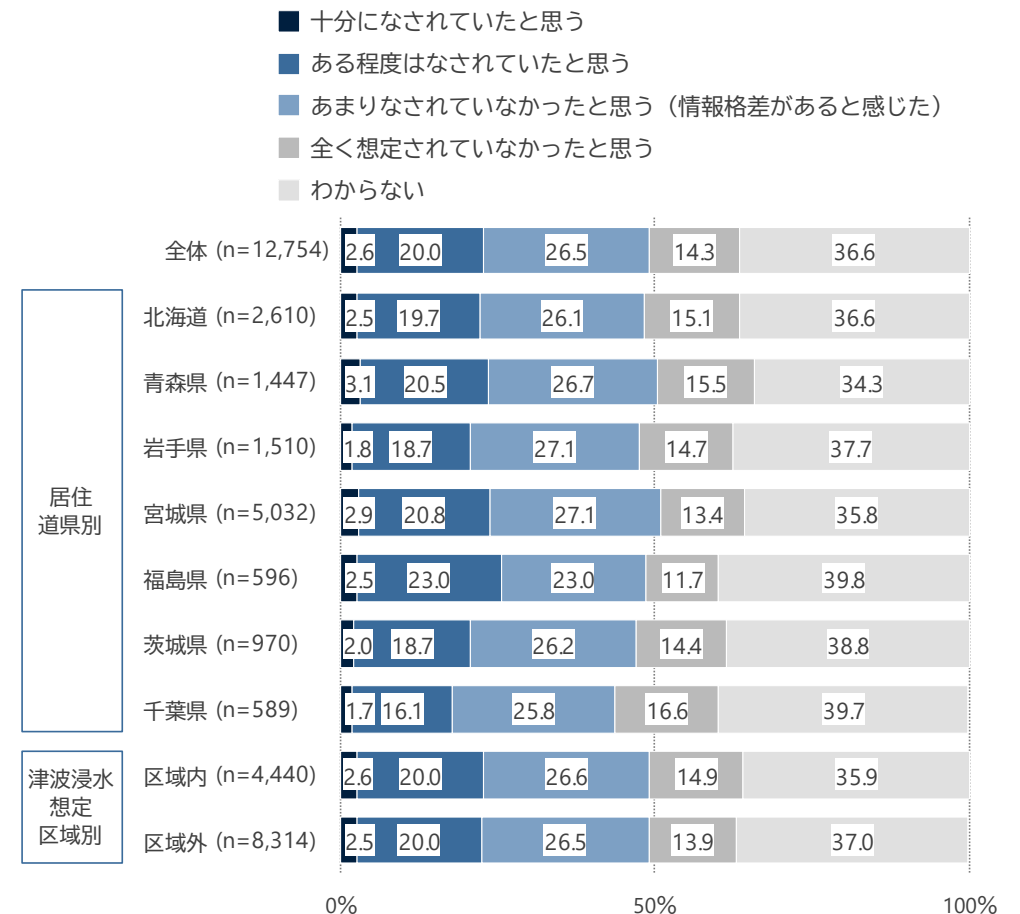
3 具体的な防災行動

- ▶ 注意情報の発表期間中の要支援者支援は、「全く意識しなかった」（37.6%）が最も高い。「具体的に支援の手順などを確認・相談した」は4.8%にとどまり、居住道県別・津波浸水想定区域別のどちらも特徴的な傾向はみられない
- ▶ 障がいを持つ方に配慮した注意情報の発表について、「わからない」以外では「あまりなされていなかったと思う」（26.5%）が最も高い。十分に・ある程度はなされていたとの回答は千葉県のみやや低いものの、それ以外では居住道県別・津波浸水想定区域別のどちらも特徴的な傾向はみられない

3-6 注意情報の発表期間中、近隣の要支援者の安否確認や避難支援を意識したか



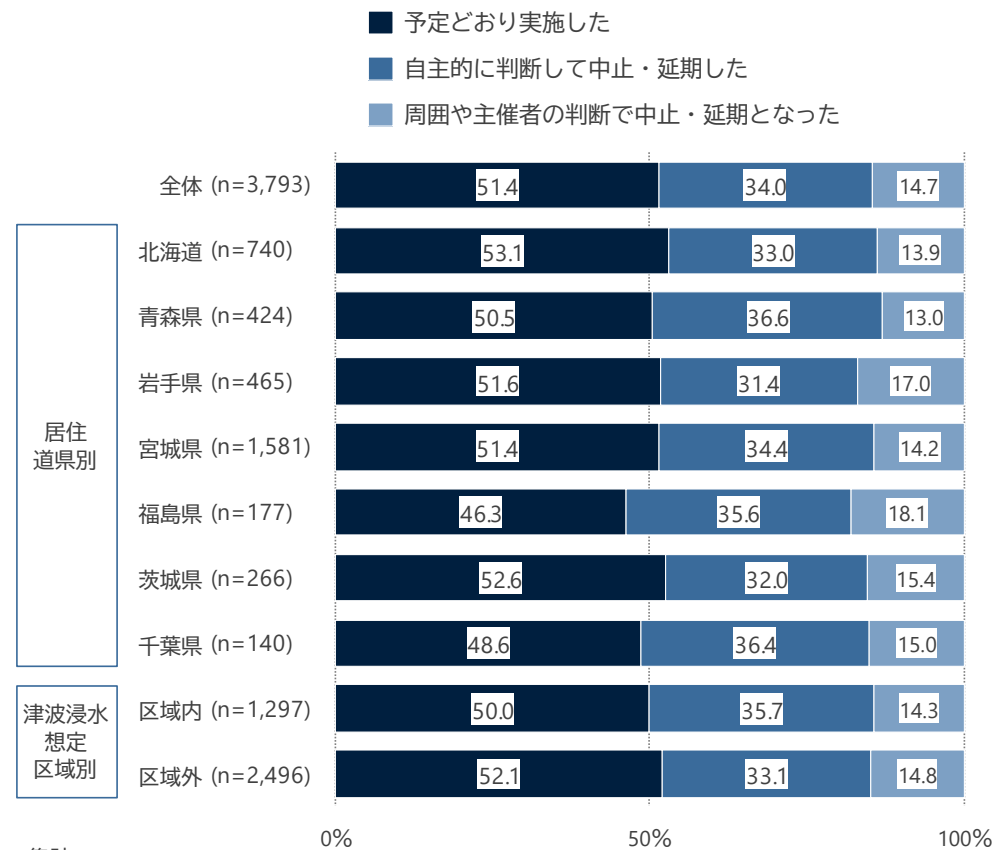
3-7 注意情報の発表は、障がいを持つ方に伝わるような配慮がなされていたか



4 社会活動への影響・混乱

- ▶ 注意情報を受けた旅行やイベント等の実施について、「予定どおり実施した」人と「中止・延期した（なった）」人がおおむね半々
- ▶ 居住道県別・津波浸水想定区域別のどちらも特徴的な傾向はみられない

4-1 注意情報を受けて、予定していた旅行やイベント、外出などを実施したか

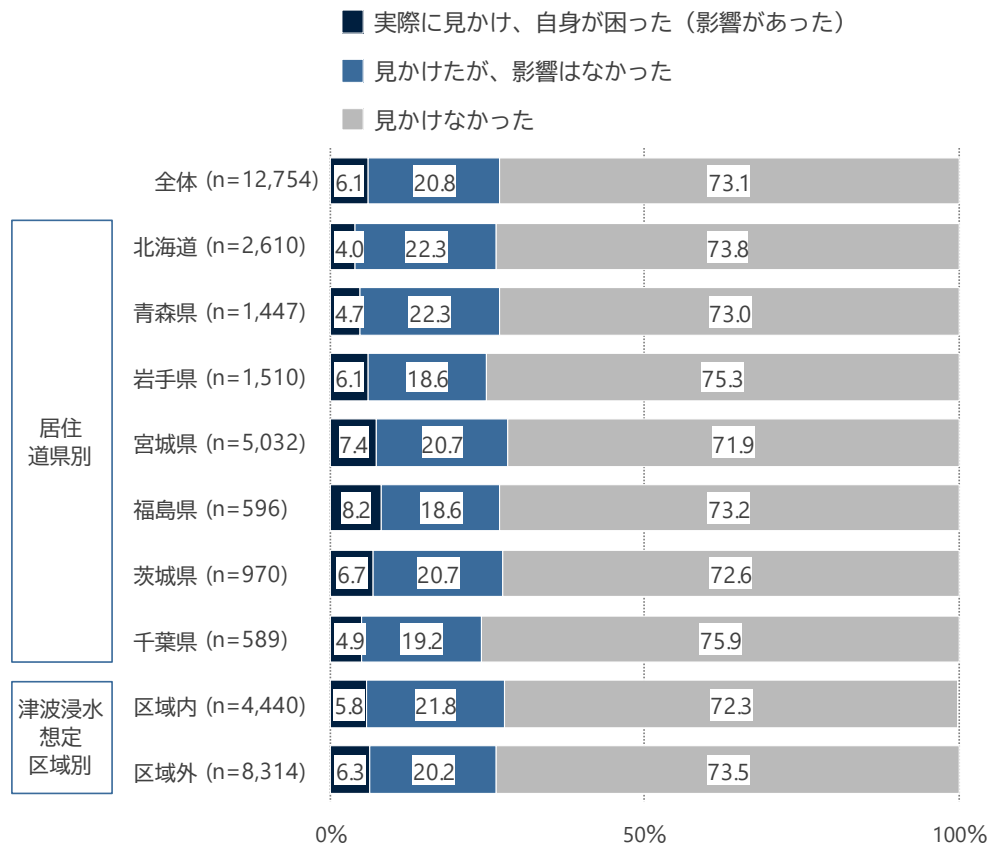


※選択肢「特に予定はなかった」を除外して集計

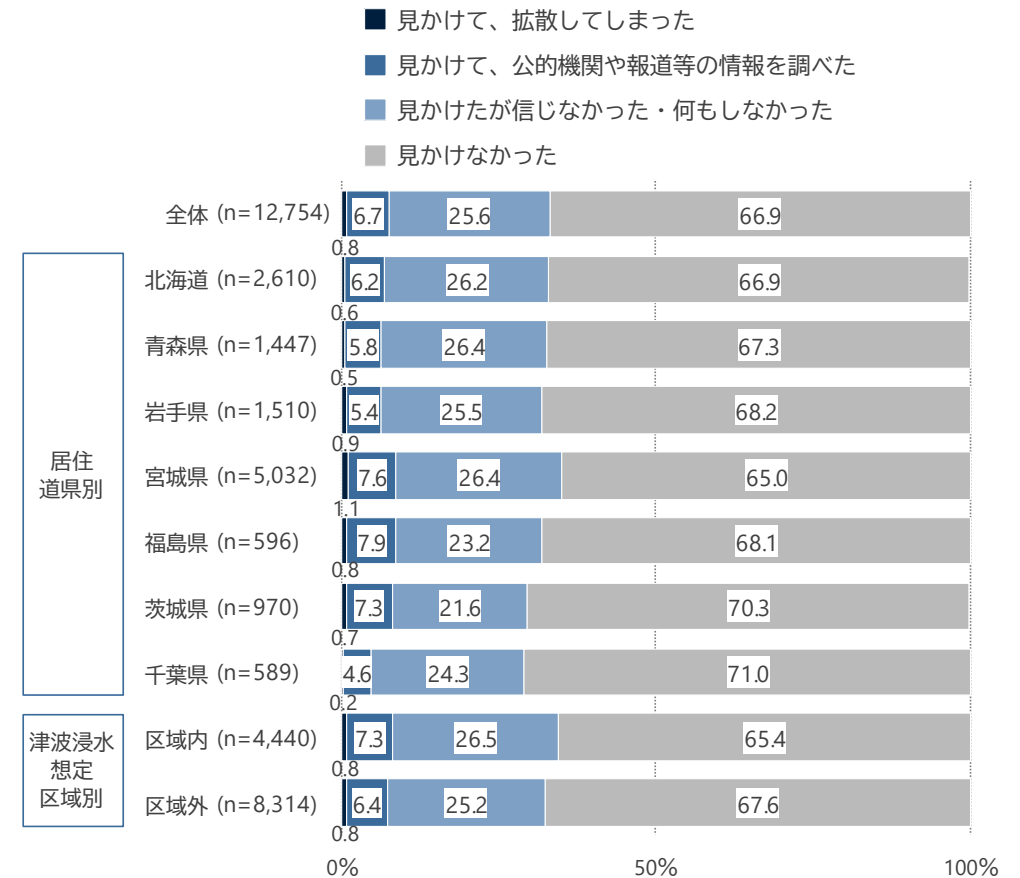
4 社会活動への影響・混乱

- ▶ 注意情報の発表期間中の買い占めや品薄の状況について、「見かけなかった」（73.1%）が最も高い。「実際に見かけ、自身が困った（影響があった）」は6.1%で、居住道県別・津波浸水想定区域別のどちらも特徴的な傾向はみられない
- ▶ 偽情報・誤情報についても「見かけなかった」（66.9%）が最も高い。見かけても「公的機関や報道等の情報を調べた」または「信じなかった・何もしなかった」人がほとんどで、「拡散してしまった」（0.8%）は僅か。居住道県別・津波浸水想定区域別のどちらも特徴的な傾向はみられない

4-2 注意情報の発表期間中、買い占めや品薄の状況を見かけたか



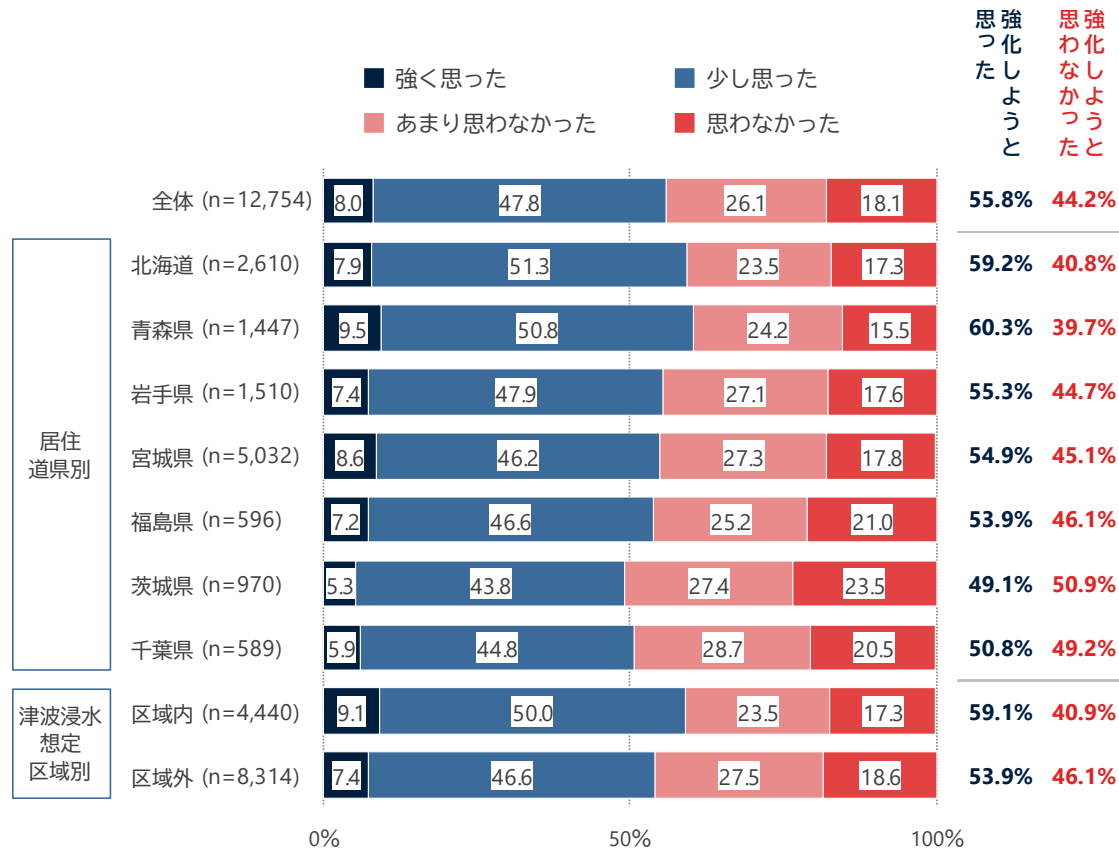
4-3 注意情報の発表期間中、SNS等で偽情報・誤情報を見かけたか



5 現在の状況

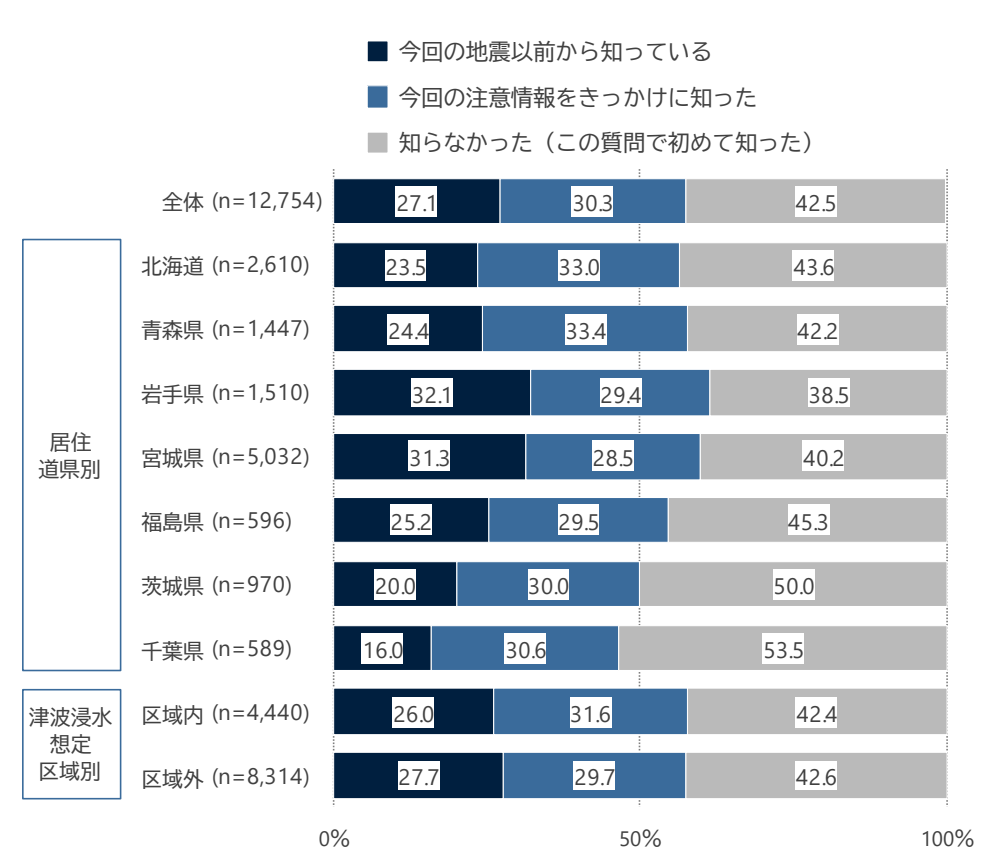
- ▶ 注意情報を受けて地震・津波への備えを強化しようと思った人が55.8%、思わなかった人が44.2%。おおむね南部に位置する県になるにつれて強化しようと思った割合が低くなる傾向がある。津波浸水想定区域別では、区域内の備えを強化しようと思った割合が区域外に比べやや高い
- ▶ 注意情報は東日本大震災の事例も踏まえて運用開始されたことについて、「知らなかった」（42.5%）が最も高い。「今回の地震以前から知っている」は岩手県・宮城県で3割以上である一方、茨城県・千葉県では2割以下にとどまり、「知らなかった」が5割以上。津波浸水想定区域別では特徴的な傾向はみられない

5-1 注意情報を受けて、地震・津波への備えを強化しようと思ったか



※グラフ右の数値は、類似した2つの選択肢の回答割合の合算値
 なお、四捨五入の関係で、合算値が個々の回答割合の単純な足し上げ値と一致しない場合がある

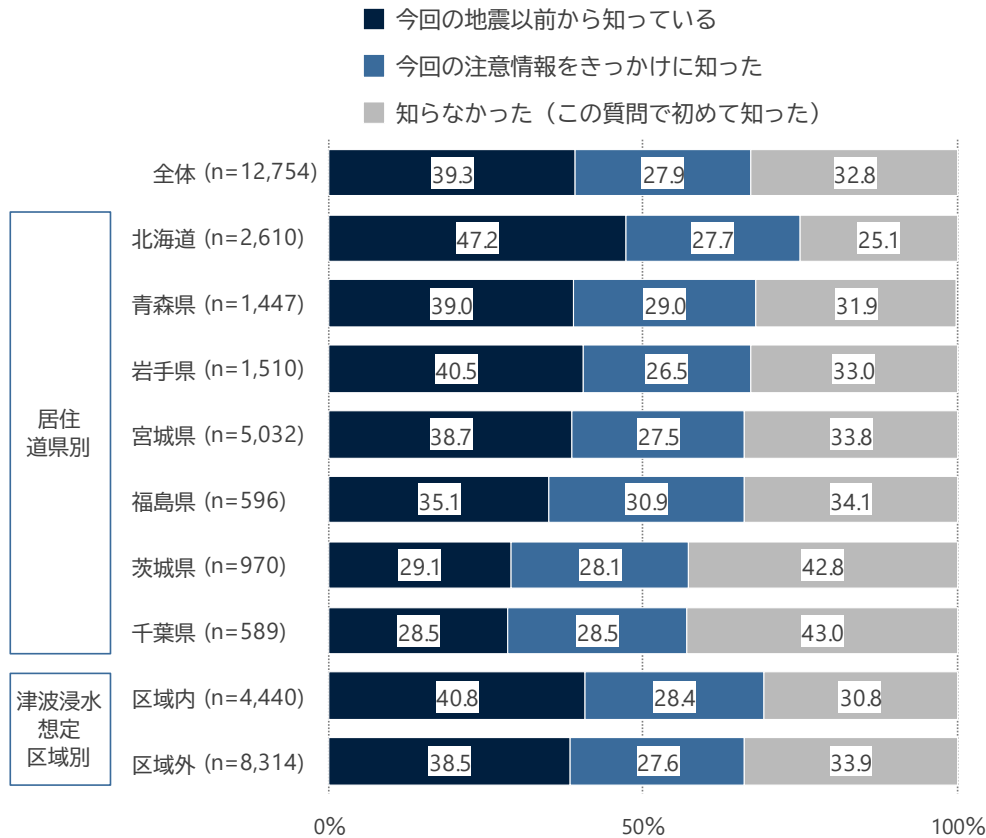
5-2 注意情報は東日本大震災の事例も踏まえて運用開始されたことを知っていたか



5 現在の状況

- ▶ 日本海溝・千島海溝周辺での大規模地震・津波の発生可能性について、「今回の地震以前から知っている」（39.3%）が最も高い
- ▶ 「今回の地震以前から知っている」はおおむね南部に位置する県になるにつれて割合が低くなる傾向がある
- ▶ 津波浸水想定区域別では、区域内の「今回の地震以前から知っている」「今回の注意情報をきっかけに知った」が区域外に比べ僅かに高い

5-3 日本海溝・千島海溝周辺で大規模地震・津波の発生可能性があることを知っていたか

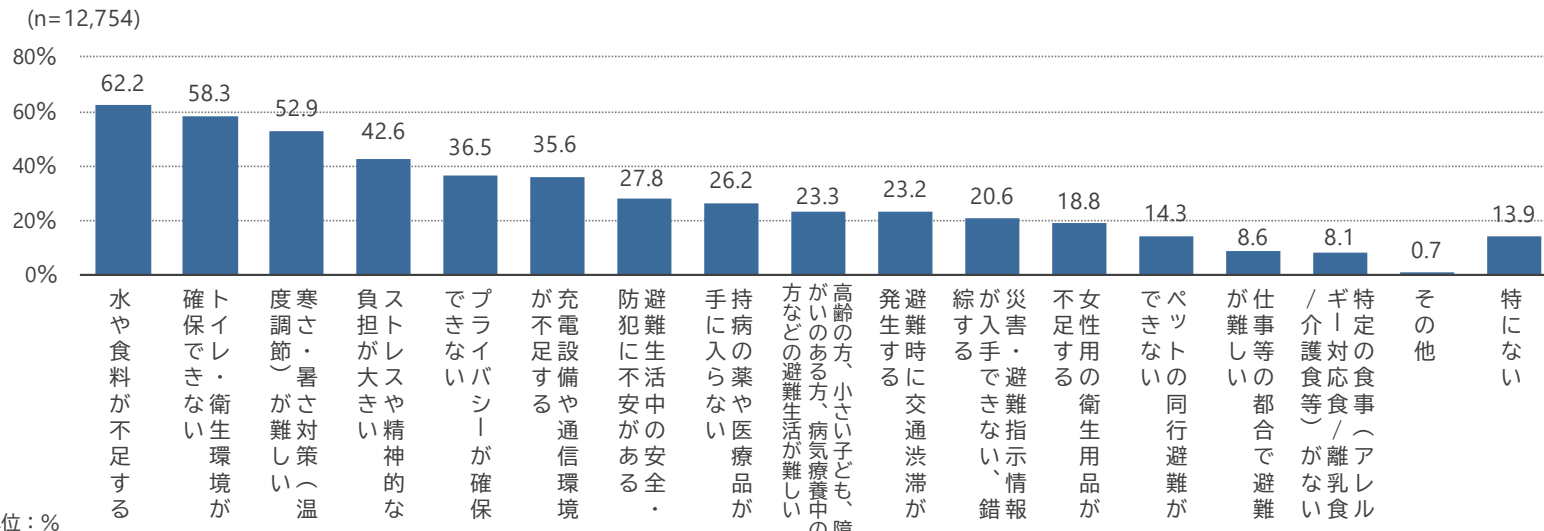


5 現在の状況

- ▶ 大規模な地震・津波発生時の不安は、「水や食料が不足する」(62.2%)、「トイレ・衛生環境が確保できない」(58.3%)、「寒さ・暑さ対策(温度調節)が難しい」(52.9%)が5割以上と高い
- ▶ 居住道県別・津波浸水想定区域別でもこれらの項目がトップ3であり、特徴的な傾向はみられない

5-4 大規模な地震・津波が発生した場合、避難時や避難生活で不安に思うこと

複数選択可



居住道県別	津波浸水想定区域別	区域	人数 (n)	水や食料が不足する	トイレ・衛生環境が確保できない	寒さ・暑さ対策(温度調節)が難しい	負担が大きい精神的な不安	プライバシーが確保できない	充電設備や通信環境が不足する	避難生活中の安全・防犯に不安がある	持病の薬や医療品が手に入らない	高齢の方、小さい子ども、障がいのある方、病気療養中の方などの避難生活が難しい	避難時に交通渋滞が発生する	災害・避難指示、情報が入手できない、錯綜する	女性用の衛生用品が不足する	ペットの同行避難ができない	仕事等の都合で避難が難しい	介護食等)が離乳食/特定の食事(アレルギー食)	その他	特になし
北海道			(n=2,610)	57.0	56.8	52.6	42.5	38.7	33.3	26.5	24.2	21.7	22.6	19.0	16.8	14.8	8.1	7.0	0.5	14.9
青森県			(n=1,447)	62.5	59.2	53.8	42.8	38.4	35.8	28.2	24.2	22.6	24.9	20.5	19.0	13.6	10.2	8.3	0.7	13.1
岩手県			(n=1,510)	63.0	58.7	55.4	44.1	36.9	39.2	27.6	28.1	24.4	21.2	20.5	20.8	14.7	8.7	8.7	0.7	13.1
宮城県			(n=5,032)	64.7	59.2	53.3	42.7	34.9	36.7	28.2	27.2	24.0	22.1	21.7	19.8	13.8	8.4	8.5	0.7	13.0
福島県			(n=596)	64.3	55.9	51.3	43.3	34.2	31.5	29.5	29.9	24.3	31.7	20.8	18.1	13.8	9.4	8.7	0.5	15.1
茨城県			(n=970)	62.5	58.8	50.0	39.9	36.1	34.9	26.0	23.8	22.1	23.9	20.0	16.9	13.1	8.0	7.7	0.5	15.5
千葉県			(n=589)	58.9	55.7	49.2	41.6	38.5	32.9	30.7	27.0	25.1	26.1	19.7	16.5	19.4	9.0	7.8	1.0	16.5
津波浸水想定区域別	区域内		(n=4,440)	60.7	58.3	53.2	42.9	38.5	35.0	28.7	26.5	22.8	27.3	21.0	18.9	15.0	8.4	8.1	0.6	13.8
	区域外		(n=8,314)	63.1	58.3	52.8	42.5	35.5	36.0	27.3	26.1	23.6	21.0	20.4	18.7	13.9	8.8	8.1	0.7	13.9

5 現在の状況

- ▶ 注意情報や防災についての意見・要望等について自由記述式でたずねたところ、得られた内容としては「情報に関する事」「防災意識、備えに関する事」「災害弱者やペットに関する事」「避難行動に関する事」などに関するものが多かった

5-5 今回の注意情報や防災についての意見・要望、気づいたこと（主な意見抜粋）

【情報に関する事】

- 情報過多の時代なので、正しい知識や行動をする機会を作るのは大事だと思います。（青森県/40代男性）
- 情報があげすぎてあまり行動を起こした人は自分を含めほとんど居なかった気がします。（宮城県/50代男性）
- 注意するに越したことはないのかもしれないし、完璧に予知できないことも理解しているが、あおりすぎではないか。結果なにも起きなかったので、オオカミ少年化してしまい、本当に大災害が起きる場合にみんな信じなくて大きな被害が起きることを懸念します。（岩手県/40代女性）
- 情報量が多すぎてどれを信じていいのかかわからないが、災害はいつ起こるかわからないので、もっと対策などを家族で話し合いたいと思っている。（北海道/50代女性）
- 今回の注意情報は問題ないと思うが、何度も発令され何も起こらないとだんだん麻痺してくるのでは。（岩手県/70代男性）
- アプリなどに速報が入るようになり、助かっています。SNSが普及して進む支援がある反面、あおる情報や偽っての情報を流す対策がないのかとも思います。（宮城県/40代女性）
- 沿岸と内陸とで対応の内容や準備も異なると思う。不特定多数への均一な情報提示ではなく、対象の人や行動に合わせて適切な情報提示ができれば理想。また、平時の情報に対する意識を高める施策も改善が必要と思われる。（福島県/50代男性）
- 注意情報等が長い期間ガラガラと出されていても危機感が薄れて行ってしまい効果がなくなってしまうように感じられる。呼びかけ等に工夫が必要である。また、地域の津波警報などの(海岸の防災放送による)呼びかけも、警報が出ている間しつこく夜中まで流されているが、この在り方も工夫しないと、ただの迷惑放送になってしまうように感じている。申し訳ありませんが、工夫の余地が大いにあると思う。（福島県/60代男性）
- 防災意識の醸成には一定の効果があったのではないかと。しかし、オオカミ少年のように捉えてしまう方が一定数いたのも確か。今後同様の注意情報発信時に軽くとらえられてしまうのではないかと心配している。（北海道/40代男性）
- フェイクニュースの拡散が気になる。何を信用してよいのか、不安を少々持っている。（宮城県/50代男性）
- 注意情報が出ている間はどのような行動を取り、どこまで生活範囲に制限をかければよいのか具体的な情報が欲しかったと感じています。（青森県/20代女性）
- NHKを見ていたので気づくことができたが、それ以外だとあまりテレビを見ないし、ラジオも聞かないし、防災放送も聞こえづらく、情報に気づくことが難しかったと思う。（岩手県/50代女性）
- 注意情報や防災情報はあっちこっち(複数箇所)にサイトを置かずひとまとめにしてほしい。注意情報なら注意情報サイト。防災情報なら各都道府県、各市町村でひとまとめにしてほしい。テレビ局で作ったサイトでは不安や疑問点が出てきてますます分からなくなる。（福島県/40代男性）

5 現在の状況

【防災意識、備えに関する事】

- 東日本大震災を経験しているためある程度の心づもりはできているつもりである。だが、住んでいる地域の環境や岩盤が比較的強いことで防災意識が薄れていることを反省した。（岩手県/60代女性）
- 東日本大震災を経験したが、防災意識はほんとうに薄くなったし、もう何も来ないだろうという意識がどうしても高い。そう考えると不安にはなるがやっぱり大丈夫とってしまう自分がある。（宮城県/50代男性）
- 後発地震が来るかもしれない、来ないかもしれない、というのは特に東日本大震災を経験した地域では普段から「また地震が来るかもしれない」という状況と何が違うのか？という感覚があり、いわゆる防災慣れして注意報に「今更感」があったのは感じました。（福島県/40代女性）
- 災害の事前準備が一番重要で、各家庭での意識をもつことを改めて確認出来た。（宮城県/70代男性）
- 防災については、あまり危機的感覚が自分自身が薄かったなと思いました。普段から防災に対して最低限の準備は必要なのだと強く思いました。（北海道/40代男性）

【災害弱者やペットに関する事】

- ペットがいる為どこにも避難できない。（福島県/60代女性）
- 障害者や高齢者などにも、わかりやすい情報を。（千葉県/50代女性）
- 地震発生時に何をすればいいのか、子供や高齢者でもわかるような、時系列のイラスト付きの説明書などがあればいいと思う。（茨城県/60代男性）
- ペットと暮らしている高齢者が沢山います。その人達の意見は、ペットにおいては避難できないので、どんな状況になっても家に残るといった意見が沢山ありました。その辺も人間とどう折り合いをつけながら避難を呼びかけるか真剣に考えて欲しいと思います。（福島県/70代女性）
- 障がい児が居るため避難所等には避難は出来ないと思います、オムツやペースト状の食事を作らなくてはならないので、そういう家庭のための避難所があれば助かります。（福島県/50代男性）
- 母一人で小さな子供を連れて、数日分の防災用品を持っての避難など到底無理。（北海道/30代女性）

【避難行動に関する事】

- 避難に車は必須ですので徒歩避難は現実的でない。（青森県/50代女性）
- 避難すべきかどうか迷う。東日本大震災の時も避難の途中で津波に遭い、家にいた方が良かった場合と家が流され避難した方が良かった場合とがある。（宮城県/60代男性）
- 避難訓練も実態と合わない。大規模停電の場合、避難所の暖房照明が使用できず、自宅待機の方が安全だと思った。自宅避難者への対応がされていない。（宮城県/70代男性）

【その他】

- 外国人が増えてきており、災害時に混乱するのではないか、日本人のようにマナーを守ってくれないのではないかと不安です。（宮城県/50代女性）
- 特段不安をおおる内容ではなく、情報的にも不足はないと思う。各自がどう認識するかが重要かと思うが、外国人も増えておりフォローが必要かと思うが、国籍や言語も様々であり簡単ではないと思うが対応が必要と思う。（宮城県/60代男性）
- この場所で大きな地震を何回も体験しているので、多少の事ではビックリしない。（青森県/60代男性）

北海道・三陸沖後発地震注意情報に関する調査 調査結果レポート

発行 2026年4月

- 本調査は、東北大学災害科学国際研究所、株式会社サーベイリサーチセンターによる共同調査です。
- 調査結果の引用等にあたっては、同2者の名称と、その共同調査であることの出所を明記して使用してください。
- ご不明な点など、問い合わせについては、お手数ですが下記までご連絡をください。

東北大学災害科学国際研究所

- 組織名 東北大学災害科学国際研究所
- 所在地 宮城県仙台市青葉区荒巻字青葉468番1号
- 担当 准教授 佐藤 翔輔 教授 今村 文彦
- 連絡先 TEL：022-752-2140 E-mail：shosuke.sato.a7@tohoku.ac.jp（佐藤 翔輔）

株式会社サーベイリサーチセンター

- 組織名 株式会社サーベイリサーチセンター
- 所在地 東京都荒川区西日暮里2丁目40番10号
- 担当 広報担当 松下 正人 E-mail：src_support@surece.co.jp 調査担当 岩崎 雅宏 E-mail：iwa_m@surece.co.jp
品質部 営業企画本部
TEL：03-3802-6779 FAX：03-3802-6729 TEL：03-3802-6727 FAX：03-3802-7321

サーベイリサーチセンター 会社概要

- 会社名 : 株式会社サーベイリサーチセンター
- 所在地 : 東京都荒川区西日暮里2丁目40番10号
- 設立 : 1975年2月
- 資本金 : 6,000万円
- 年商 : 115億円(2025年度)
- 代表者 : 代表取締役 藤澤 士朗、長尾 健、石川 俊之
- 社員数 : 社員364名、契約スタッフ532名(2026年2月1日現在)
- 事業所 : 東京(本社・支社)、札幌、帯広、盛岡、仙台、新潟、静岡、名古屋、大阪、岡山、広島、高松、福岡、熊本、那覇
- 主要事業 : 世論調査・行政計画策定支援、都市・交通計画調査、マーケティング・リサーチ
- 所属団体 : 公益財団法人 日本世論調査協会 一般社団法人 日本マーケティング・リサーチ協会(JMRA) 日本災害情報学会 一般社団法人 交通工学研究会 他
- その他 : IS09001認証取得(2000年6月) プライバシーマーク付与認定(2000年12月) ISO20252認証取得(2010年10月) ISO27001認証取得(2015年11月)※

※認証区分及び認証範囲：

- ・MR部及びGMR部が実施するインターネットリサーチサービスの企画及び提供
- ・全国ネットワーク部及び沖縄事務所が実施する世論・市場調査サービスの企画及び提供